

科目名 (英)	導入教育Ⅰ (Introductory TrainingⅠ)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	化粧品総合学科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 集中
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 業界で活躍できるプロに必要なとされる身構え、気構え、心構えを習得する授業を行う。 社会から求められているのは、化粧品に関する知識・技術だけでなく、人々のQOLを支え、社会に貢献するという役割だということを意識しながら授業に臨んで欲しい。							
【到達目標】 目的意識を高めプロに必要な身構え、気構え、心構えを身につける。また、同じ目的を持った仲間との相互支援的環境をつくる。							
【使用教科書・教材・参考書】 学生便覧、ITリテラシー、キャンパスライフガイド				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 新入生オリエンテーション 【授業形態】 講義 【到達目標】 各種配布物の確認と説明を受け、内容を理解する。 これから始まる学生生活に期待を持って始められるように準備をする。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 新入生オリエンテーション 【授業形態】 講義 【到達目標】 2年間共に学ぶクラスの約束事を理解する。 学校にある様々な支援を知る。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 新入生オリエンテーション 【授業形態】 講義 【到達目標】 東京医薬看護専門学校の学生として目的・目標を見つける				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 学生便覧の読み合わせ 【授業形態】 講義 【到達目標】 学校生活を円滑に進めるための学生便覧の内容を理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 学校生活のサポートについて知る 【授業形態】 講義 【到達目標】 学生便覧の内容を理解する。 進路決定に至った過程を振り返り、決意を文章化する。 JTSCを知る。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 時間割とシラバスの見方 【授業形態】 講義 【到達目標】 時間割の見方を知り、スケジュールを立てられる。 シラバスの見方を知り、学習計画を立てられる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 ITリテラシー 【授業形態】 講義 【到達目標】 社会生活を営む上で必須とされるITリテラシーを学び、理解度テストに合格する。 基礎学力試験を通して、自分の強み弱みを知り今後の学習に活かせる対策を考える。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 健康診断の振り返り 【授業形態】 講義 【到達目標】 健康診断を通じて、健康であることの大切さや、日々の健康管理に留意することを学ぶ。				【評価方法について】 基礎学力試験を実施する。評価は学則の評価基準に準ずる。		
【特記事項】							

科目名 (英)	導入教育Ⅱ (Introductory TrainingⅡ)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	化粧品総合学科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 集中
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 化粧品業界で働いている方が、業界で活躍できるプロに必要なとされる身構え、気構え、心構えを習得する授業を行う。 社会から求められているのは、化粧品に関する知識・技術だけでなく、人々のQOLを支え、社会に貢献するという役割だということ意識しながら授業に臨んで欲しい。							
【到達目標】 ①化粧品の現場を見学することにより、化粧品業界の理解を深めるとともに、将来やりたいことを明確にするためのきっかけにする。 ②化粧品企業の研究所、工場、店舗見学をすることにより、化粧品の研究～製造～流通の過程について知る。。 ③「化粧品が好き」から「化粧品を仕事にする」に自己変革する。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 事前学習 【授業形態】 講義 【到達目標】 見学に行く企業について知る。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 企業見学① 【授業形態】 演習 【到達目標】 見学を通して、仕事内容について知る。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 企業見学② 【授業形態】 演習 【到達目標】 見学を通して、仕事内容について知る。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 企業見学③ 【授業形態】 演習 【到達目標】 見学を通して、仕事内容について知る。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 企業見学④ 【授業形態】 講義 【到達目標】 見学を通して、仕事内容について知る。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 企業見学⑤ 【授業形態】 講義 【到達目標】 見学を通して、仕事内容について知る。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 企業見学⑥ 【授業形態】 演習 【到達目標】 見学を通して、仕事内容について知る。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 事後学習 【授業形態】 演習 【到達目標】 企業見学を通して、仕事の種類、内容について知る。 希望する職種についてわかる。				【評価方法について】 見学報告書を提出する。評価は学則の評価基準に準ずる。		
【特記事項】 ※企業見学については変更の可能性あり							

科目名 (英)	パーソナルビジョン (Personal Vision)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	化粧品総合学科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 金曜日 2時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 専門学校で学校生活や就職活動の支援を行ってきた教員が授業を担当する。 社会人としての「身構え・気構え・心構え」を身につけ、「自律協働」ができる人材を目指す。 職業像を意識しながら目標を明確にし、楽しく有意義な学校生活が送れるようにしましょう。							
【到達目標】 目標設定を行い、学校生活に落としこんだ具体的な行動にうつすことができる。 自己理解・他者理解を通じて、クラス内におけるコミュニケーションを深めることができる。 チームで活動することの重要性や楽しさを理解し、グループワーク等で実践できるようになる。							
【使用教科書・教材・参考書】 ・配付資料 ・ワークシート				【授業外における学習】 ・授業で学んだコミュニケーションワークの実践			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 オリエンテーション① 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ・導入研修の振り返りをする中で、2年間の学校生活をどのように過ごすか、楽しい授業を想像することができる			9	【授業単元】 感情の共有 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ・前期の半分を過ぎてみて、入学当初のライフラインチャートがどう変わったか、振り返ることができる ・感情を共有し合うことで、より安心と信頼を得ることができる		
2	【授業単元】 オリエンテーション② 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ・安心安全な学校生活をサポートしてくれる環境があることを知る			10	【授業単元】 グループワーク① 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ・チームワークの大切さを知り、他者と協力してものごとを進めることができる ・相手の良いところを見つけることができる		
3	【授業単元】 オリエンテーション③ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ・SNSやWEBの正しい使い方を知る			11	【授業単元】 将来について考える 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ・自分の将来を想像し、今できることを考える ・就職活動への準備を少しずつはじめ、就職活動が始まるときにスムーズに活動することができる		
4	【授業単元】 クラス組織づくり 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ・自分のことを知り、クラス内での自分の役割を見つけることができる ・個人目標を立て、目標達成のために「今できること」を見つけることができる			12	【授業単元】 グループワーク② 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ・チームワークの大切さを知り、他者と協力してものごとを進めることができる ・自分の意見を積極的に言えるようになる		
5	【授業単元】 コミュニケーションアップ① 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ・コミュニケーションの苦手意識を軽減出来る ・コミュニケーション技法を習得する			13	【授業単元】 化粧品検定1級対策 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ・化粧品検定1級の学習意欲を高め、クラス全員で合格できるようにお互いに助け合うことができる		
6	【授業単元】 「化粧品総合学科」を考える 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ・入学した動機を再度考えながら、自分のことを相手に知ってもらい、受け入れてもらう努力ができる			14	【授業単元】 企業研究 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ・企業研究をし、学外実習がスムーズかつ有意義に過ごせるように準備する		
7	【授業単元】 コミュニケーションアップ② 【授業形態】 【到達目標】 ・コミュニケーションの苦手意識を軽減出来る ・誰ともコミュニケーションができるよう、習得したコミュニケーション技法を実践する			15	【授業単元】 夏休みに向けて 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ・夏休みを計画的に過ごすための準備ができる		
8	【授業単元】 企画をしてみよう！ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ・入学した動機を再度見つめなおし、モチベーションを維持することができる ・お互いにアイデアを交換し、相手の考えを理解する努力ができる			【評価方法について】 中間評価:提出物40点 定期評価:出席点15コマ×1点、提出物45点 =60点 評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】							

科目名 (英)	専門英語	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
	(Professional English)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 水曜日 2時限
学科・専攻	化粧品総合学科						
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 【教員紹介】東京農業大学、日本外国語専門学校などで英語を指導。現在は主に予備校で授業を担当。英検1級、TOEIC980点を取得。大学ではアメリカ文学の翻訳を学ぶ。外国語で書かれたものを正しく読み取れた時の感動を、一人でも多くの人に味わってほしいとの思いを込めて授業を行う。【授業の学習内容】単語や文法というインプットに加えて、具体的な場面を設定したロールプレイングというアウトプットも行う。4技能にバランスよく触れるように設計された、学生が自ら考え、発言する機会の多い内容である。毎授業、音読と英語クイズのいずれかを実施する。							
【到達目標】 化粧品に関連した内容において、習得した文法を使って相手の伝えたいことを正しく理解し、自分の伝えたいことを正しく伝えられる力を身に着ける。							
【使用教科書・教材・参考書】 プリントを配布する				【授業外における学習】 宿題を課さないが、中間・定期試験の対策は授業外で各自行うように。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 第1講 【授業形態】 講義 【到達目標】 ①簡単な英語インタビュー(面接)で受け答えができる②英語を使ったゲーム(Who am I game)ができる③辞書と機械翻訳を使用する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 第2講 【授業形態】 講義 【到達目標】 ①化粧品をめぐるテーマに関して、英語で文章を書ける②他人の書いた英語文の内容を読み取る③辞書と機械翻訳を使用する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 第3講 【授業形態】 講義 【到達目標】 ①店員として英語を使って外国人客に対応できる②機械翻訳を適切に使用する③基本的な化粧品を英語で言えるようになる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 第4講 中間試験 【授業形態】 講義 【到達目標】 身に着けてほしい知識・技能は次のとおりである・①授業中に扱った単語②授業中に自分で書いた英語文を再現すること③簡単な英語インタビューや英会話で受け答えをすること				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 第5講 【授業形態】 講義 【到達目標】 ①化粧品を扱った説明文を英語で読んで理解できる②辞書と機械翻訳を適切に使用する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 第6講 【授業形態】 講義 【到達目標】 ①(第5講から続く)化粧品を扱った説明文を英語で読んで理解できる②辞書と機械翻訳を適切に使用する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 第7講 【授業形態】 講義 【到達目標】 ①美容部員として英語を使ってアドバイスができる②辞書と機械翻訳を適切に使用する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験、解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 身に着けてほしい知識・技能は次のとおりである・①授業中に扱った単語②授業中に読んだ英語文の理解③簡単な英会話で受け答えをすること				【評価方法について】 評価は次の項目ごとに行う。1.中間試験(40%)2.定期試験(50%)3.受講姿勢(10%)。受講姿勢においては、出席回数を重視する。		
【特記事項】 辞書や機械翻訳(DeepLなど)を積極的に使うことを求める。辞書や機械翻訳のアプリをスマホに事前にインストールしておくことが望ましい。							

科目名 (英)	PCスキルⅠ (PC SkillⅠ)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	化粧品総合学科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 月曜日 3時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 滋慶学園グループのコンピュータ関連企業に所属しており、複数の専門学校にて学生へのPC講義や教職員へのPC研修を実施している。 <学習内容> ・コンピュータネットワーク環境の適切な利用を学ぶ ・Wordで複合文書を作成する ・Excelの基本操作やデータベース、効果的なグラフの作成方法を学ぶ” ・メールマナーを学ぶ							
【到達目標】 ・新しいテクノロジーや情報を扱うための基礎的な知識や注意点を理解し、正しく活用できる ・Wordを利用し、複合文書の作成ができる ・Excelを利用し、表計算や表、グラフの作成ができる ・マナーを理解し、メールを送信できる							
【使用教科書・教材・参考書】 滋慶学園グループの学生に必要なスキルに特化した、オリジナルのe-learning(インターネット上のテキスト)を使用				【授業外における学習】 次回講義までに不明な操作をe-learning(インターネット上のテキスト)で確認しておく			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 CCT入門1 【授業形態】 講義 【到達目標】 講座を受講する意義を理解し、PCの基本操作ができる			9	【授業単元】 CCT入門4 【授業形態】 講義 【到達目標】 Excelの基本操作ができる		
2	【授業単元】 CCT入門2 【授業形態】 講義 【到達目標】 新しいテクノロジーや情報を扱うための基礎的な知識や注意点を理解し、正しく上手に活用できる			10	【授業単元】 Excel基礎1 【授業形態】 講義 【到達目標】 企業や施設が求める表計算ソフトの操作ができる		
3	【授業単元】 メールマナー 【授業形態】 講義 【到達目標】 受け取り手に好印象を与えるメールのマナーを知り、メール機能を使いこなすことができる			11	【授業単元】 Excel基礎2 【授業形態】 講義 【到達目標】 関数を駆使した資料を作成できる		
4	【授業単元】 Word基礎1 【授業形態】 講義 【到達目標】 文書作成ソフトを使って、効率的にビジネス文書を作ることができる			12	【授業単元】 Excel基礎3 【授業形態】 講義 【到達目標】 グラフを駆使した資料を作成できる		
5	【授業単元】 Word基礎2 【授業形態】 講義 【到達目標】 画像や図形を駆使した文書を作成できる			13	【授業単元】 Excel応用A(データベース) 【授業形態】 講義 【到達目標】 データベース機能を理解し活用できる		
6	【授業単元】 Word基礎3 【授業形態】 講義 【到達目標】 表を駆使した文書を作ることができる			14	【授業単元】 Excel定期試験対策 【授業形態】 講義 【到達目標】 Excel基礎で習ったことを実践できる		
7	【授業単元】 Word試験対策 【授業形態】 講義 【到達目標】 Word基礎で習ったことを実践できる			15	【授業単元】 Excel定期試験 【授業形態】 講義 【到達目標】 定期試験 Excel資料作成		
8	【授業単元】 Word中間試験 【授業形態】 講義 【到達目標】 中間試験 Word資料作成			【評価方法について】 評価は実技試験で行い、授業内で説明した機能の理解、操作の定着度を確認する。中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】							

科目名 (英)	PCスキルⅡ (PC SkillⅡ)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	化粧品総合学科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 木曜日 3時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 滋慶学園グループのコンピュータ関連企業に所属しており、複数の専門学校にて学生へのPC講義や教職員へのPC研修を実施している。 ＜学習内容＞ ・Excel関数応用、グラフ応用 ・PowerPointを利用して、聴衆者に訴求力のある効果的なスライドを作成する							
【到達目標】 ・Excelの応用的な機能を活用し、高度な資料作成ができる ・PowerPointを利用し、効果的なスライドの作成ができる							
【使用教科書・教材・参考書】 滋慶学園グループの学生に必要なスキルに特化した、オリジナルのe-learning(インターネット上のテキスト)を使用				【授業外における学習】 次回講義までに不明な操作をe-learning(インターネット上のテキスト)で確認しておく			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 Word 差込印刷 【授業形態】 講義 【到達目標】 WordやExcelで作成したデータをWord文書の指定した位置に差し込んで印刷することができる			9	【授業単元】 PowerPointダイジェスト 【授業形態】 講義 【到達目標】 スライド作成の基本的な操作ができる		
2	【授業単元】 Excel応用B(関数応用1) 【授業形態】 講義 【到達目標】 応用的な関数を活用できる1			10	【授業単元】 プレゼン基礎1(設計) 【授業形態】 講義 【到達目標】 何を伝えるかを簡潔に示したスライド作成の設計ができる		
3	【授業単元】 Excel応用C(関数応用2) 【授業形態】 講義 【到達目標】 応用的な関数を活用できる2			11	【授業単元】 プレゼン基礎2+3(図解、表・図表) 【授業形態】 講義 【到達目標】 レイアウト、配色等、デザインに考慮した図解を作成できる 表の活用・図表の効果的な表現をすることができる		
4	【授業単元】 Excel応用D(グラフ応用) 【授業形態】 講義 【到達目標】 目的に合ったグラフを選択し、作成することができる			12	【授業単元】 PowerPoint(ブラッシュアップ) 【授業形態】 講義 【到達目標】 フォントや配色などを工夫して見やすいスライドに編集できる		
5	【授業単元】 Excel応用E(ブックの活用) 【授業形態】 講義 【到達目標】 目的に合ったグラフを選択し、作成することができる			13	【授業単元】 PowerPoint4(発表) 【授業形態】 講義 【到達目標】 作成したスライドを使って発表できる		
6	【授業単元】 Excel応用実践 【授業形態】 講義 【到達目標】 練習問題を通して操作を実践的に活用する			14	【授業単元】 PowerPoint試験対策 【授業形態】 講義 【到達目標】 PowerPoint授業で習ったことを実践できる		
7	【授業単元】 Excel応用試験対策 【授業形態】 講義 【到達目標】 Excel応用で習ったことを実践できる			15	【授業単元】 PowerPoint 定期試験・解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 定期試験 PowerPoint資料作成		
8	【授業単元】 Excel応用 中間試験・解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 中間試験 Excel資料作成			【評価方法について】 評価は実技試験で行い、授業内で説明した機能の理解、操作の定着度を確認する。 中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。 評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】							

科目名 (英)	キャリアデザインⅠ (Career Design Ⅰ)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	化粧品総合学科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 金曜日 3時限
【授業の学習内容と心構え】 高等学校、専門学校でキャリア支援に携わってきた教員が授業を担当する。 就職に向けて、書類作成、筆記対策から身構え、気構え、心構えを身に着ける。							
【到達目標】 履歴書が書けるようになり、求人表がいつ来てもすぐに対応が出来るようになる。 社会人としての立ち振る舞いが出来るようになる。							
【使用教科書・教材・参考書】 Hand-book of Life Style				【授業外における学習】 社会人としてのマナー、言葉遣いなどを常に意識する。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 働くことについて考える 【授業形態】 講義 【到達目標】 なぜ働くのか、働くことの意味を考えることができる。 労働法について理解できる。			9	【授業単元】 履歴書作成 【授業形態】 講義 【到達目標】 履歴書の下書きを完成させることができる。		
2	【授業単元】 就職活動の際の留意点について 【授業形態】 講義 【到達目標】 就職活動において、注意すべき点や就職活動で起こりがちなトラブルの対処法について理解できる。			10	【授業単元】 就職試験対策(筆記試験)①小論文 【授業形態】 講義 【到達目標】 小論文の構成を理解し、書くことができる。		
3	【授業単元】 業界・企業研究 【授業形態】 講義 【到達目標】 化粧品業界について知る			11	【授業単元】 就職試験対策(筆記試験)②一般教養 【授業形態】 講義 【到達目標】 自分が目指す業界を理解し、そこで求められる人材像を考える。		
4	【授業単元】 就職情報サイトの登録方法 【授業形態】 講義 【到達目標】 就職情報サイトの登録をし、今後の情報を集められるようになる。			12	【授業単元】 就職試験対策(筆記試験)③SPI 【授業形態】 講義 【到達目標】 自分が目指す業界を理解し、そこで求められる人材像を考える。		
5	【授業単元】 メイク講座 【授業形態】 講義 【到達目標】 就職活動において、メイクに注意すべき点について理解できる。			13	【授業単元】 就職試験対策(面接練習) 【授業形態】 講義 【到達目標】 各質問には面接官のどんな意図があるのか？学生の何を知りたいのか？質問の狙いを把握する。 各質問の意図を踏まえて自分だったらどう答えるのか考える。		
6	【授業単元】 自己理解 【授業形態】 講義 【到達目標】 自己分析を通じて、自己理解を深めることができる。			14	【授業単元】 模擬面接会 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 模擬面接を体験し、実際の面接状況のイメージを掴む。 ※リクルートスーツ着用		
7	【授業単元】 履歴書作成 【授業形態】 講義 【到達目標】 履歴書の記入項目について、理解する。			15	【授業単元】 定期試験・解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験・解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】			【評価について】 中間試験:40点分(授業中の提出物、出席率も含む) 定期試験:60点分(授業中の提出物、出席率も含む)			
【特記事項】							

科目名 (英)	化学Ⅰ (Chemistry Ⅰ)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・コース	化粧品総合学科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 金曜日 1時限
【担当教員紹介と授業の学習内容と心構え】 化学を専門分野とし、企業の研究所で化合物の分析業務に従事し、その後、本校及び他専門学校、高校で長年化学系の科目を教えてきた教員が、化粧品を扱う仕事や化粧品の研究開発に必要な化学の基礎を教える。化粧品の成分として使われる無機化合物や有機化合物の性質や名称について基本的な知識を習得してほしい。							
【到達目標】 化学物質を扱う際に必要な化学の基礎知識を習得するとともに、化粧品の研究や開発に必要なより深い知識と、その知識をもとに考える力を身に付ける。							
【使用教科書・教材・参考書】 新編基礎化学 第2版 実教出版				【授業外における学習】 教科書をよく読み、ノートを見て授業の復習をすること。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 原子と元素、分子 【授業形態】 講義 【到達目標】 原子と元素、分子、それぞれの意味を理解し、説明でき、簡単な分子の分子式が書けるようになる。			9	【授業単元】 共有結合 【授業形態】 講義 【到達目標】 化学結合の一種である共有結合について理解し、簡単かつ重要な分子の電子式、構造式が書けるようになる。		
2	【授業単元】 元素の周期表 【授業形態】 講義 【到達目標】 元素の周期表の意味を理解し、重要な元素の名称と元素記号を覚える。とくに原子番号1～20の元素については原子番号・元素名・元素記号の3点セットで覚える。			10	【授業単元】 イオン結合 【授業形態】 講義 【到達目標】 化学結合の一種であるイオン結合について理解し、重要なイオン結合性物質の化学式(組成式)が書けるようになる。		
3	【授業単元】 原子の電子配置とイオン 【授業形態】 講義 【到達目標】 原子の電子配置について理解し、説明ができるようになる。また、イオンとは何か、電子配置から説明ができ、イオンのイオン式が書けるようになる。			11	【授業単元】 金属結合、配位結合 【授業形態】 講義 【到達目標】 金属結合、配位結合について理解し、具体例を挙げて説明ができるようになる。		
4	【授業単元】 原子の電子軌道 【授業形態】 講義 【到達目標】 原子の電子配置の理解を深めるために、より詳しい電子の軌道についてエネルギーも含めて理解する。			12	【授業単元】 分子間力と分子間の結合 【授業形態】 講義 【到達目標】 分子間に働く力(分子間力)と分子間の結合について理解し、電気陰性度、水素結合について説明ができるようになる。		
5	【授業単元】 原子量と分子量 【授業形態】 講義 【到達目標】 原子量と分子量の意味を理解し、簡単な計算ができるようになる。			13	【授業単元】 気体の性質 【授業形態】 講義 【到達目標】 気体の性質について学び、ボイル・シャルルの法則や気体の状態方程式を理解する。		
6	【授業単元】アボガドロ数とモル 【授業形態】 講義 【到達目標】 アボガドロ数の意味を理解し、 6.02×10^{23} という数値を覚える。物質量とその単位であるモル(mol)について理解する。			14	【授業単元】気体の性質 【授業形態】 講義 【到達目標】 ボイル・シャルルの法則や気体の状態方程式に関する計算練習を行い、気体に関する計算ができるようになる。		
7	【授業単元】 アボガドロ数とモルの計算 【授業形態】 講義 【到達目標】 アボガドロ数とモルに関する簡単な計算を行うことにより、物質量に関する理解を深める。			15	【授業単元】 【授業形態】 定期試験・解答解説 【到達目標】 定期試験を行うことにより、これまでの授業内容の理解と知識の定着を確認する。		
8	【授業単元】 【授業形態】 中間試験・解答解説 【到達目標】 中間試験を行うことにより、これまでの授業内容の理解と知識の定着を確認する。			【評価について】 評価は筆記試験で行う。中間試験40点と定期試験60点、合計100点満点で評価する。評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】 講義はよく聞き、板書したことはノートに書くこと。							

科目名 (英)	化学Ⅱ (Chemistry Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 金曜日 1時限
学科・コース	化粧品総合学科						
【担当教員紹介と授業の学習内容と心構え】 化学を専門分野とし、企業の研究所で化合物の分析業務に従事し、その後、本校及び他専門学校、高校で長年化学系の科目を教えてきた教員が、化粧品を扱う仕事や化粧品の研究開発に必要な化学の基礎を教える。化粧品の成分として使われる無機化合物や有機化合物の性質や名称について基本的な知識を習得してほしい。							
【到達目標】 化学物質を扱う際に必要な化学の基礎知識を習得するとともに、化粧品の研究や開発に必要なより深い知識と、その知識をもとに考える力を身に付ける。							
【使用教科書・教材・参考書】 新編基礎化学 第2版 実教出版				【授業外における学習】 教科書をよく読み、ノートを見て授業の復習をすること。			
回				回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 溶液の性質と濃度 【授業形態】 講義 【到達目標】 溶液のいろいろな性質と、濃度のいろいろな表し方を理解し、質量％濃度、モル濃度、質量モル濃度の式が単位も含めて正しく書けるようになる。			9	【授業単元】 酸化・還元 【授業形態】 講義 【到達目標】 酸化と還元について、電子の授受という点から理解する。また、酸化数の意味と酸化数の求め方を理解し、酸化数の変化から酸化還元反応を考えることができるようになる。		
2	【授業単元】 溶液の濃度に関する計算演習 【授業形態】 講義 【到達目標】 質量％濃度、モル濃度、質量モル濃度の計算ができるようになる。			10	【授業単元】 酸化・還元と金属のイオン化傾向・イオン化列 【授業形態】 講義 【到達目標】 金属の性質とイオン化傾向、イオン化列について理解し、金属のイオン化列が書けるようになる。		
3	【授業単元】 ppm, ppb, pptという単位の意味と扱い 【授業形態】 講義 【到達目標】 非常に薄い濃度の液体に用いるppm, ppb, pptという濃度単位の意味を理解し、簡単な計算ができるようになる。			11	【授業単元】 無機化合物(1) 【授業形態】 講義 【到達目標】 無機化合物の性質を考える上で重要になる周期表を、前回(化学Ⅰ)よりも詳しく見る。典型元素と遷移元素の違いについて電子配置の点から説明できるようになる。		
4	【授業単元】 沸点上昇と凝固点降下 【授業形態】 講義 【到達目標】 溶液の性質として、沸点上昇と凝固点降下について、具体例とともに理解し、簡単な計算ができるようになる。			12	【授業単元】無機化合物(2) 【授業形態】 講義 【到達目標】 無機化合物の中で特に重要なものを取り上げ、構造と性質を関連付けて理解する。		
5	【授業単元】 浸透圧 【授業形態】 講義 【到達目標】 浸透圧について理解し、具体例とともに説明できるようになる。また、浸透圧に関する簡単な計算ができるようになる。			13	有機化合物(1) 【授業形態】 講義 【到達目標】 有機化合物とは何か、有機化合物の歴史から始まり、有機化合物の分類について理解する。		
6	【授業単元】 酸と塩基 【授業形態】 講義 【到達目標】 酸と塩基の定義とそれぞれの性質について理解する。			14	【授業単元】有機化合物(2) 【授業形態】 講義 【到達目標】 有機化合物の基本であるメタンの構造を理解し、説明できるようになる。アルカン、アルケン、アルキンの意味を理解し、炭素数10までの名称を覚える。		
7	【授業単元】 pH 【授業形態】 講義 【到達目標】 水素イオン濃度、水酸化物イオン濃度、pHについて理解し、pHに関する簡単な計算ができるようになる。			15	【授業単元】 【授業形態】 定期試験・解答解説 【到達目標】 定期試験を行うことにより、これまでの授業内容の理解と知識の定着を確認する。		
8	【授業単元】 【授業形態】 中間試験・解答解説 【到達目標】 中間試験を行うことにより、これまでの授業内容の理解と知識の定着を確認する。			【評価について】 評価は筆記試験で行う。中間試験40点と期末試験60点、合計100点満点で評価する。評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】 講義はよく聞き、板書したことはノートに書くこと。							

科目名 (英)	有機化学 (Organic Chemistry)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	化粧品総合学科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 木曜日 2時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 有機化学を専門分野とし、企業の研究所で有機化合物の分析、合成、構造決定業務に従事し、その後、大学および大学院教授として化学系の科目を教え、研究をしてきた教員が化粧品を扱う仕事や化粧品の研究開発に必要な有機化学の基礎を教える。化粧品の成分として使われる有機化合物の性質や命名法について基本的な知識を学んでいく。基本事項をしっかり記憶することが将来現場での応用に生きることもしっかり認識してほしい。考えるにはまず覚えることが前提となる。							
【到達目標】 有機化合物の構成元素である炭素、水素、酸素、窒素の4元素について電子配置や結合のしかたを理解し、覚える。有機化合物命名法を習得し、命名できる。官能基を覚え、それぞれの分類に属する化合物の構造、特性を理解する。化粧品の成分を官能基で分類することができる。エステル合成など身近な化合物の合成が自分でできるように電子の動きに着目した合成法の基礎的理解をする。							
【使用教科書・教材・参考書】 これからはじめる化学 第2版 三共出版 使える有機化学 (藤森 嶺著) : 授業時に配布 (参考書) はじめて学ぶ有機化学 (化学同人)				【授業外における学習】 使っている化粧品の成分について官能基での分類をしてみる。化粧品の特徴がどの成分の効果なのかを考えてみる。授業で学んだことについて試験問題と解答を作ってみる。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 有機化合物を構成する元素 【授業形態】 講義 【到達目標】 炭素、水素、酸素、窒素の電子配置を書き、説明できる。 有機化合物と無機化合物の違いを説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 炭化水素 【授業形態】 講義 【到達目標】 メタンの構造と混成軌道を説明できる。 アルカン、アルケン、アルキンについて代表的な化合物各2種類について説明でき、構造式を書ける。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 異性体 【授業形態】 講義 【到達目標】 構造異性体について説明できる。 立体異性体について説明できる。 5種類くらいの炭化水素の命名をできる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 官能基 【授業形態】 講義 【到達目標】 おもな官能基8種類程度を覚え、各官能基の代表的な化合物一つの構造式を書いて、その性質を説明できる。中間試験と解説も行う。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 アルコールとエーテル 【授業形態】 講義 【到達目標】 アルコール3種類、エーテル2種類の構造を書き、その性質を説明できる。アルコールの酸化反応と脱離反応を説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 カルボニル化合物、カルボン酸、エステル 【授業形態】 講義 【到達目標】 カルボニル化合物、カルボン酸、エステル各2種類、の構造を書き、その性質を説明できる。カルボニル基に起こる求核付加反応を説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 ベンゼンと芳香族化合物、化学合成 【授業形態】 講義 【到達目標】 ベンゼンの構造を書き、その性質を説明できる。共役二重結合を書き、その性質を説明できる。芳香族化合物2種類の構造式を書き、その性質を説明できる。化学合成の基礎を習得し、合成の仕組みを説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験、解説 【授業形態】 【到達目標】 有機化合物の命名法、異性体の識別、官能基の説明が定着できている。			【評価方法について】 評価は筆記試験で行う。中間試験40点と定期試験60点、合計100点満点で評価する。評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】 記憶しやすいようにノートの取り方を工夫してみること。							

科目名 (英)	機器分析化学	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
	(Equipment Analytical Chemistry)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分	後期
学科・専攻	化粧品総合学科					曜日・時間	火曜日 2・3時限
【担当教員紹介と授業の学習内容と心構え】 化学を専門分野とし、企業の研究所で化学物質の分析業務に従事し、その後、本校及び他専門学校、高校で長年化学系の科目を教えてきた教員が、化粧品の分析業務に必要な、分光光度計、高速液体クロマトグラフィー(HPLC)、ガスクロマトグラフィー(GC)の原理について講義を行う。また、実際に装置を使って簡単な分析を行うことによって、各装置の操作法を習得するとともに、その分析法についての理解を深める。							
【到達目標】 分光光度計、高速液体クロマトグラフィー、ガスクロマトグラフィーの基本原理を理解し、装置の基本的な操作法を習得する。							
【使用教科書・教材・参考書】 ライフサイエンス系の機器分析 三共出版				【授業外における学習】 プリントやノートを見て授業の復習をするとともに、教科書もよく読む。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 分光光度計の原理と装置について 【授業形態】 講義 【到達目標】 分光光度計の原理を理解するとともに、ランバート・ベールの法則について学び、簡単な計算を通して吸光度の意味を理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 分光光度計による定量 【授業形態】 実習 【到達目標】 分光光度計で測定した濃度既知の試料の吸光度から検量線を作成し、未知試料の濃度を求める。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 ガスクロマトグラフィーの原理と装置 【授業形態】 講義 【到達目標】 クロマトグラフィー共通の原理と、特にガスクロマトグラフィーの原理と装置について学ぶ。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 ガスクロマトグラフィーによる定性分析 【授業形態】 実習 【到達目標】 何種類かのアルコール混合物のガスクロマトグラフィーを測定し、各成分の保持時間の違いから定性を行う。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 高速液体クロマトグラフィー(HPLC)の原理と装置 【授業形態】 講義 【到達目標】 HPLCの基本原理と装置の概要について学ぶ。逆相クロマトグラフィーの原理について説明ができるようになる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 HPLCの基本的な操作法を学ぶ。 【授業形態】 実習 【到達目標】 実際に試料の測定を行うことにより、装置の仕組みを理解し、基本的な操作法を習得する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 HPLCによるパラベンの定性と定量分析 【授業形態】 実習 【到達目標】 化粧品の成分として用いられているパラベンについて、単体及び混合物のHPLC測定を行い、溶出順序を確認するとともに、市販の化粧水中のパラベンの定性と定量を行う。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 復習と定期試験 【授業形態】 講義、試験、解説 【到達目標】 定期試験により、これまでの授業内容の理解と知識の定着を確認する。				【評価について】 評価は実習のレポート点40点と定期試験60点、合計100点満点で評価する。評価は学則規定の準ずる。		
【特記事項】 教科書もよく読み、各分析法の概要を理解する。実習の際は試料濃度や測定結果などをノートに記録すること。							

科目名 (英)	化粧品原料化学 (Study of Cosmetic Material)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	化粧品総合学科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 木曜日 1・2時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 研究開発に携わってきた講師が授業を担当する。化粧品を知るにはその構成成分となる原料を知ることが基本であり、特に化粧品開発に携わるのであれば化粧品原料の種類と特徴、応用に関する知識は必須である。欧米を中心に原料規制が進んでおり、規制の状況を理解することによって、化粧品開発に生かしていく。							
【到達目標】 日常使用している化粧品を構成している原料(成分)について、その特性などを理解しさらに製品の基本的な役割や機能との関係が理解できている。							
【使用教科書・教材・参考書】 ◎「新化粧品学」第2版 光井武夫編 南山堂 ◎「化粧品成分ガイド」第6版 宇山侑男 岡部美代治 久光一誠編著 フレグランスジャーナル社 ◎その他プリント				【授業外における学習】 化粧品に用いられる原料について教科書やプリントの予習復習を通じ役割や性質等の理解を深めていくこと			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 化粧品原料に関わる法規 【授業形態】 講義 【到達目標】 化粧品原料に関わる法規を理解する ・化粧品原料における薬機法および規制の理解 ・欧米における規制の理解 ・化粧品原料で起きたトラブル過去例			11	【授業単元】 粉体原料 【授業形態】 講義 【到達目標】 粉体原料の種類と特徴、用途の理解 ・着色料の種類と特徴、用途を理解する ・体質顔料の種類と特徴、用途を理解する ・パール剤の種類と特徴、用途を理解する		
2	【授業単元】 化粧品原料各論 【授業形態】 講義 【到達目標】 化粧品原料の種類と特徴の理解 ・化粧品原料の種類と特徴を理解する ・化粧品原料を理解するに必要な化学構造を理解する			12	【授業単元】 香料および紫外線防御成分 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・香料の安全性および種類と特徴を理解する ・紫外線について理解する ・紫外線防御成分の種類と特徴、規制を理解する		
3・4	【授業単元】 各種油性原料の種類と特徴 【授業形態】 講義 【到達目標】 化粧品に使用される油性原料の種類、用途、特徴の理解 ・油脂・ロウ類の種類と特徴および用途についての理解 ・炭化水素・高級脂肪酸・高級アルコール類の特徴、用途等の理解 ・エステル類・シリコン油その他最近の合成油の種類、用途の理解			13	【授業単元】 品質保証成分 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・防腐剤の必要性および種類、規制を理解する ・酸化防止剤の種類と特徴を理解する ・キレート剤の種類と特徴を理解する		
5・6	【授業単元】 各種界面活性剤の種類と特徴 【授業形態】 講義 【到達目標】 化粧品に使用される界面活性剤の種類、用途、特徴の理解 ・イオン性界面活性剤の種類と特徴および用途について理解する ・ノニオン性界面活性剤の種類と特徴および用途について理解する ・両性界面活性剤の種類と特徴および用途について理解する			14	【授業単元】 pH調整剤および定期試験対策 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・pH調整剤、緩衝剤の種類および特徴を理解する ・定期試験にむけて復習を行う		
7	【授業単元】 中間試験および解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 界面活性剤、保湿剤や高分子材料などの役割の理解 ・中間試験の実施 ・試験の解答解説によって、理解を深める			15	【授業単元】 定期試験および解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・定期試験の実施 ・試験の解答解説によって、各自の理解度を把握する		
8	【授業単元】 植物エキスの種類と特徴 【授業形態】 講義 【到達目標】 植物エキスの種類と特徴、用途の理解 ・植物エキスの広告塔への表現について理解する ・植物エキスの種類および肌効果を理解する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
9	【授業単元】 保湿成分およびエモリエント成分 【授業形態】 講義 【到達目標】 保湿成分、エモリエント成分の種類・特徴の理解 ・保湿成分の種類および特徴を理解する ・エモリエント成分とはどのような特徴があるかを理解する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
10	【授業単元】 バリア機能成分および水溶性高分子 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・バリア機能性成分の種類および特徴を理解する ・水溶性高分子の種類および特徴、用途を理解する			【評価方法について】 中間試験(40点満点) 実施方法:筆記試験(持ち込み無し) 定期試験(60点満点) 実施方法:筆記試験(持ち込み無し)			
【特記事項】							

科目名 (英)	機能性原料化学 (Functional Material Chemistry)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	化粧品総合学科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 木曜日 2時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 化粧品メーカーで15年間開発研究に従事し、その後22年間商品企画開発に従事。その後、中国を中心に海外薬事業務に従事し、現在も海外薬事業務に携わっている。製品開発研究から商品企画、薬事の専門知識など幅広い知識をもとに機能性原料の専門知識を理解できるような授業を行う。化粧品の様々な訴求を担うのが、機能性原料である。機能性原料の作用のメカニズムを理解するとともに、化粧品の効果について理解することにより、化粧品業界で活かせる知識の習得をめざす。技術は日々進歩しており、最近の技術動向およびトレンドも含め講義する。							
【到達目標】 乾燥、肌あれ、しみ、老化、体臭等の肌状態のメカニズムを理解する。 機能性原料が、それぞれにどの様に働きかけるかを学ぶことにより、どのようにすれば魅力的な化粧品となるかを考えられるようにする。 あわせて、化粧品の訴求などについての制限なども理解し、化粧品業界に関わる様々な職務に通用する基礎知識を習得する。							
【使用教科書・教材・参考書】 プリント教材による				【授業外における学習】 各授業で取り上げた機能性原料について、自分が使っている化粧品にどの機能性原料が含まれているか、どのような効果があるかを調べて、より身近に感じられるようにすることが望ましい。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 機能性原料とは何か/最近のトレンド 【授業形態】 講義 【到達目標】 化粧品とは何か、機能性原料とは化粧品にどのような効果効果をもたらすかを理解する。」 最近のトレンドを学ぶことにより、現在化粧品に求められていることを理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 保湿化粧品 【授業形態】 講義 【到達目標】 肌にとって、保湿の大切さを理解し、保湿成分および表記可能な表現を学ぶ。 唯一の肌あれ改善剤についての理解をする。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 美白化粧品 【授業形態】 講義 【到達目標】 美白化粧品の認められている効果効果を正しく理解する。 シミの生成機序を学び、美白成分の種類およびメカニズムを学ぶ。 最近の美白表現への規制の流れを理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 日やけ止め化粧品 【授業形態】 講義 【到達目標】 紫外線による肌へのダメージを理解したうえで、日やけ止め化粧品の効果について学ぶ。 昨今の日やけ止め化粧品の規制について学び、今後の日やけ止め化粧品の開発への一助とする。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 エイジング化粧品 【授業形態】 講義 【到達目標】 エイジングケア表記に対する規制を理解し、エイジングケア成分を学ぶ。 化粧品新効能である「乾燥による小じわを目立たなくする」についての制約などを学ぶ。 「しわ改善」訴求が可能になった背景、現状を学ぶ。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 ニキビケア化粧品/ハンドケア化粧品 【授業形態】 講義 【到達目標】 ニキビ発生のメカニズム、ニキビに対する正しいケアを理解し、成分の効果効果を学ぶ。 ハンドケア化粧品の推移、および化粧品での分類を学ぶ。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 デオドラント化粧品/頭髮化粧品 【授業形態】 講義 【到達目標】 汗によるおのいのメカニズムおよびデオドラント化粧品の種類を理解し、デオドラント化粧品で訴求できる成分、効果効果を学ぶ。 頭髮のヘアサイクルを理解し、育毛剤で訴求できる効果効果を学ぶ。 化粧品と医薬部外品で選べる効果効果を理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験・解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 各機能性原料について、訴求可能な表現、制限の理解度を確認する。 機能性原料の種類、効果の理解を確認する。			【評価方法について】 評価は、筆記試験で行い、授業で学習した専門知識を確認する。 原則、各授業毎に小試験を実施する。小試験の合計点は40点満点で換算する。 定期試験は60点満点とする。小試験、定期試験の合計100点満点で評価する。			
【特記事項】							

科目名 (英)	化粧品化学 (Chemistry of Cosmetics)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	化粧品総合学科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 木曜日 3・4時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】							
研究・開発に携わってきた講師が授業を担当する。本講座では化粧品の開発に必要な原料成分とその配合技術を化粧品の品種毎に学んでいきます。それぞれの製品がどのような成分で構成され、どのような技術が使われているのかをしっかりと理解することが重要である。化粧品開発の基礎となるところですので、技術とその基本原理も含めて学習するよう努めてほしい。							
【到達目標】 化粧品の製品類別毎に機能、原料の使用法、構成成分と製造方法等、化粧品開発の基礎を理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 ◎「新化粧品学」第2版 光井武夫編 南山堂 ◎「化粧品成分ガイド」第6版 宇山悦男 岡部美代 治 久光一誠編著 フレグランスジャーナル社 ◎その他プリント				【授業外における学習】 予習復習に加え、市販の化粧品を手にする機会があれば、どのような成分から構成されているかを見ておくようにしましょう			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 化粧品概要 【授業形態】 講義 【到達目標】 化粧品についての理解 ・化粧品の歴史、黙テクを理解する ・化粧品における法規を理解する ・化粧品市場について理解する			9	【授業単元】 メイクアップ製品Ⅱポイントメイク製品およびネイルエナメル製品 【授業形態】 講義 【到達目標】 ポイントメイク製品とネイルエナメル製品の特徴の理解 ・ポイントメイク製品の種類と特徴を理解する ・ポイントメイク製品を製造するための規制を理解する ・ネイルエナメル製品の種類と特徴を理解する		
2	【授業単元】 化粧品の品質保証と皮膚科学 【授業形態】 講義 【到達目標】 化粧品における品質保証と皮膚科学の理解 ・化粧品における必要な品質保証について理解する ・皮膚の構造、役割について理解する			10	【授業単元】 頭髮化粧品Ⅰ洗髪用化粧品 【授業形態】 講義 【到達目標】 頭髮化粧品の種類および洗髪用化粧品についての理解 ・頭髮化粧品に必要な毛髪化学を理解する ・頭髮化粧品の種類および特徴を理解する ・洗髪用化粧品の種類および特徴を理解する		
3	【授業単元】 スキンケア化粧品Ⅰクレンジング製品、洗顔料 【授業形態】 講義 【到達目標】 クレンジング製品および洗顔料の種類、特徴の理解 ・クレンジング製品の求める品質、種類、特徴を理解する ・洗顔料の求める品質、種類、特徴を理解する			11	【授業単元】 頭髮化粧品Ⅱスタイリング剤および育毛、パーマ染毛剤 【授業形態】 講義 【到達目標】 スタイリング剤および育毛剤などの種類、特徴の理解 ・スタイリング剤の種類および特徴を理解する ・脱毛の原因を把握し、育毛剤の役割、成分を理解する ・パーマ剤、染毛剤の種類、特徴、成分を理解する		
4	【授業単元】 スキンケア化粧品Ⅱ化粧水、乳液 【授業形態】 講義 【到達目標】 化粧水、乳液の役割と特徴の理解 ・スキンケア化粧品に必要な界面化学を理解する ・化粧水の種類、役割を理解する ・乳液の種類、役割を理解する			12	【授業単元】 フレグランス化粧品およびボディ用洗浄料 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・フレグランス化粧品の種類、特徴を理解する ・ボディ用洗浄料の種類、特徴を理解する		
5	【授業単元】 スキンケア化粧品Ⅲクリーム、スペシャルケア製品 【授業形態】 講義 【到達目標】 クリーム、スペシャルケア製品の役割と特徴の理解 ・クリームの種類、役割を理解する ・スペシャルケア製品の定義のついて理解する ・スペシャルケア製品の種類、役割を理解する			13	【授業単元】 ボディケア製品 【授業形態】 講義 【到達目標】 UVケア化粧品をはじめボディケア製品の特徴の理解 ・UVケア化粧品の種類、規制について理解する ・ハンドケア、防臭剤の種類、特徴を理解する ・脱毛剤、除毛剤とはないかを理解する ・入浴剤の種類、特徴を理解する		
6	【授業単元】 化粧品と色彩 【授業形態】 講義 【到達目標】 メイクアップ製品に必要な色彩の理解 ・メイクアップ製品に必要な色彩について理解する ・中間試験対策として復習			14	【授業単元】 エアゾール製品 【授業形態】 講義 【到達目標】 エアゾール製品の特徴、規制の理解 ・エアゾール製品の機構について理解する ・エアゾール製品の特徴、規制について理解する ・定期試験にむけての復習		
7	【授業単元】 中間試験および解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 中間試験および解答解説により理解の把握 ・中間試験 ・解答解説により理解度の把握をする			15	【授業単元】 提起試験および解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 定期試験および解答解説による理解の把握 ・定期試験 ・解答解説により理解度の把握をする		
8	【授業単元】 メイクアップ化粧品Ⅰベースメイク製品 【授業形態】 講義 【到達目標】 メイクアップ製品の種類別の特徴の理解 ・メイクアップ製品の種類と特徴を理解する ・ベースメイク製品の種類と特徴を理解する			【評価方法について】 中間試験(40点満点) 実施方法:筆記試験(持ち込み無し) 定期試験(60点満点) 実施方法:筆記試験(持ち込み無し)			
【特記事項】							

科目名 (英)	調香化学 (Chemistry of Perfume)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・コース	化粧品総合学科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 月曜日 1・2(3・4)時限
【授業の学習内容と心構え】 ブラジル、メキシコで9年間の香料創香業務、日本において創香業務を行ってきた教員が調香の基礎を教える。 化粧品原料としての香料を理解する。							
【到達目標】 原料香料を使用し調香にトライする。 自分の香りを調香する。							
【使用教科書・教材・参考書】 使用教材:配布プリント				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1・2	【授業単元】 香料概論 【授業形態】 講義 【到達目標】 香料とは何か				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3・4	【授業単元】 合成香料 【授業形態】 講義 【到達目標】 天然香料を知る。香りをかぎながら。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5・6	【授業単元】 合成香料 【授業形態】 講義 【到達目標】 常に香料をかきながら香料原料を覚えていく。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7・8	【授業単元】 中間試験・解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 自身の感性を生かす。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
9・10	【授業単元】 天然Fruitを調香してみる 【授業形態】 講義 【到達目標】 自身の感性を生かす。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
11・12	【授業単元】 モチーフとは・・・ 【授業形態】 講義 【到達目標】 創香前にモチーフを作成 マイフレグランス創香				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
13・14	【授業単元】 モチーフとは・・・ 【授業形態】 講義 【到達目標】創香前にモチーフを作成 創香前にモチーフを作成 マイフレグランス創香				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
15	【授業単元】 定期試験・解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 作品提出及び記憶感性実施テスト。			【評価について】 実技(中間試験40点、定期試験60点)			
【特記事項】							

科目名 (英)	微生物学	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
	(Microbiology)						
学科・専攻	化粧品総合学科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 月曜日 2時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 学生時代は魚病学、養殖魚類の真菌症の防除に関する研究を行っていました。扱う対象が変わっても20年以上、微生物と関わっています。皆さんは微生物に対してどのような印象を持っているでしょうか？微生物によっては、病原菌として悪さはたらく種類もありますが、本来、微生物は分解者であり、ヒトと共生、もしくは中立(日和見)的な関係にあります。また微生物は未知なる可能性を秘めていて、将来、化粧品の製造などにも応用されることも期待されます。この授業では微生物を知ること、微生物に関連する知識の習得を目的とします。							
【到達目標】 微生物は環境中、人間の体外および体内に無数に存在している。授業では微生物の種類、生命活動等について触れる他、免疫による生体防御機能およびアレルギーについても学習する。これらの内容を踏まえて、微生物および免疫のはたらきが、化粧品に及ぼす影響について理解することを目標とする。							
【使用教科書・教材・参考書】 教科書として、微生物学 大木 理 著 東京化学同人、毎回、配布資料を使用する。また適宜、参考資料のコピーを配布する予定。				【授業外における学習】 知識は使うことで定着する。授業および実習で得た知識を日常生活に活用するように心掛けましょう。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 生物とは何だろう？ 【授業形態】 講義 【到達目標】 生命の定義、生物の分類・仲間分けについて学習する。			9	【授業単元】 微生物はどこにいる？ 【授業形態】 講義 【到達目標】 人体と微生物との関係について学習する。		
2	【授業単元】 微生物とは一体何者？ 【授業形態】 講義 【到達目標】 細菌、真菌、ウイルスおよびその他の微生物について学習する。			10	【授業単元】 ブドウ球菌とは？ 【授業形態】 講義 【到達目標】 皮膚の常在細菌について学習する。		
3	【授業単元】 発見者は誰だ？ 【授業形態】 講義 【到達目標】 微生物発見の歴史について学習する。			11	【授業単元】 腸内細菌とは？ 【授業形態】 講義 【到達目標】 消化管内の細菌叢について学習する。		
4	【授業単元】 微生物の中身は？ 【授業形態】 講義 【到達目標】 微生物を構成している細胞の構造について学習する。			12	【授業単元】 微生物は善か悪か？ 【授業形態】 講義 【到達目標】 微生物の活用および感染症について学習する。		
5	【授業単元】 微生物の生活様式は？ 【授業形態】 講義 【到達目標】 生命活動に必要な発酵、呼吸について学習する。			13	【授業単元】 諸刃の剣？ 【授業形態】 講義 【到達目標】 免疫とアレルギーについて学習する。		
6	【授業単元】 子孫繁栄？ 【授業形態】 講義 【到達目標】 微生物の増殖方法および増殖条件について学習する。			14	【授業単元】 微生物はご先祖様？ 【授業形態】 講義 【到達目標】 細胞の誕生、RNAワールドからの細胞の進化について学習する。		
7	【授業単元】 清潔それとも不潔？ 【授業形態】 講義 【到達目標】 微生物の殺菌方法について学習する。			15	【授業単元】 定期試験・解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】		
8	【授業単元】 中間試験・解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】			【評価方法について】 中間試験40点、定期試験60点で評価する。			
【特記事項】 進行状況によって授業の順番を変更する場合がある。中間試験以降は、実習に関連する内容と並行して授業を進める予定である。							

科目名 (英)	国際教育語学講座 (Foreign Language for Overseas Study)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	化粧品総合学科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 木曜日 4時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 化粧品販売及び海外滞在経験を持つ講師が、接客時に役立つ英会話および化粧品に関する用語を日常生活に絡めながら授業を行う。学生の英語に対する苦手意識を少しでも改善し、英語でコミュニケーションをとる楽しさを感じてもらうことも目標の一つである。							
【到達目標】 ・化粧品に関係する基礎的な英単語や接客に必要な英会話を述べることができる ・「英語が学べて楽しかった」と感じることができる							
【使用教科書・教材・参考書】 ・PPTスライド ・プリント資料配布				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 レッスン1 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・英語で簡単な自己紹介ができるようになる			9	【授業単元】 レッスン9 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・感情を表す英単語が言えるようになる ・感情についてのグループワークに取り組む		
2	【授業単元】 レッスン2 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・百貨店に入っている海外コスメブランドの歴史に触れる ・肌タイプと肌悩みに関係する簡単な英単語や英文が言えるようになる			10	【授業単元】 レッスン10 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・代表的なSNSの歴史や特徴に触れる ・SNSやスマホに関連する英単語が言える		
3	【授業単元】 レッスン3 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・百貨店に入っている日本コスメブランドの歴史に触れる ・基礎化粧品に関係する簡単な英単語や英文が言えるようになる			11	【授業単元】 レッスン11 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・印象に関係する英単語が言えるようになる ・印象についてのグループワークに取り組む		
4	【授業単元】 レッスン4 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・コミュニケーションにおける文化の違いを知る。また接客に使える英会話を言えるようになる。			12	【授業単元】 レッスン12 【授業形態】 演習 【到達目標】 ・基本的なプレゼンテーションのやり方などを知る		
5	【授業単元】 レッスン5 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・海外コスメブランドの歴史に触れる ・化粧品に関係する簡単な英単語や英文が言えるようになる			13	【授業単元】 レッスン13 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・プレゼンテーション準備を完了させる		
6	【授業単元】 レッスン6 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・日本コスメブランドの歴史に触れる ・連想ゲーム(グループワーク)に取り組む			14	【授業単元】 レッスン14 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・プレゼンテーションの発表を完了させる		
7	【授業単元】 レッスン7 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・いろんな国のブランドについて知る			15	【授業単元】 定期試験・解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 定期試験		
8	【授業単元】 中間試験・解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 中間試験			【評価方法について】 レッスン6グループワーク(10点) 中間試験(30点) レッスン9グループワーク5点) レッスン11グループワーク(20点) レッスン14プレゼンテーション(20点) 定期試験(15点) の合計100点満点で評価する。			
【特記事項】							

科目名 (英)	国際教育講座【海外研修】 (Overseas Study)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	化粧品総合学科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 集中
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 フランスにおいて、化粧品、香料専門の学校及び化粧品企業でヨーロッパにおける化粧品について講義、実習を通して日本との違いについて知る。							
【到達目標】 日本とは異なる文化を知ると共に、文化・気候等による化粧品製造・開発の違いに直接触れることで、今後の卒業研究・就職活動・就職後の商品開発等に役立てる。 化粧品をメインとした企業訪問を実施、開発・製造から販売までの流れを追うことで、商品開発の考え方を学ぶ。 香水・化粧品学校 (ISIPCA) にて、化粧品、香水の歴史から原料について講義、実習を通して処方、製造について知るとともに、見聞を広める。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1,2	【授業単元】 事前学習 【授業形態】 講義 【到達目標】 海外研修の目的、研修先について事前に調べておく。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3,4	【授業単元】 海外研修① 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 香水・化粧品学校にて化粧品、香料・香水の研修				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5,6	【授業単元】 海外研修② 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 学校にて化粧品、香料・香水の研修				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7,8	【授業単元】 海外見学③ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 企業見学を通して、フランスの化粧品事情について知る。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
9,10	【授業単元】 海外研修④ 【授業形態】 演習 【到達目標】 店舗見学を通して、フランスの化粧品事情について知る。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
11,12	【授業単元】 海外研修⑤ 【授業形態】 演習 【到達目標】 自由研修を通して、フランスの化粧品事情について知る。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
13,14	【授業単元】 海外研修⑥ 【授業形態】 演習 【到達目標】 自由研修を通して、フランスの化粧品事情について知る。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
15	【授業単元】 事後学習 【授業形態】 演習 【到達目標】 研修を通して、感じた事、知った事、身に付いた事についてまとめる。			【評価方法について】 研修報告書を提出する。評価は学則の評価基準に準ずる。			
【特記事項】 世界情勢により、国内研修に変更の可能性あり							

科目名 (英)	皮膚科学 (Dermatology)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	化粧品総合学科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 月曜日 1時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 総合日用品・化粧品メーカーの研究員としてとして皮膚科学研究、化粧品の開発を中心に約40年間携わった。 本講義では、皮膚に関する基礎知識や化粧品の影響(安全性)について幅広く学んでいただきます。興味を持ち、知識を深める意欲を持って授業に臨み、ディスカッションや質問への積極的な参加を通じて、理解を深める努力しましょう。							
【到達目標】 今後のEvidence based cosmeticsに向けて化粧品の有効性や安全性を科学的に考え理解するようになる。 皮膚科学は幅広い分野に必要であり、この講義を通して得た知識を将来のキャリアに役立てられるようになる。							
【使用教科書・教材・参考書】 「新化粧品学」南山堂(2001) 参考書:「化粧品・外用薬研究者のための皮膚科学」文光堂(2005)				【授業外における学習】 自分自身や周りの人の皮膚、毛髪、爪など体の外観をよく観察し、講義で得た知識を自身で体感すること。 化粧品関連情報やニュース、などに接し、学習の幅を広げる。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 人体最大の臓器「皮膚」とは？ 【授業形態】 講義 【到達目標】 1.「皮膚」とは？「肌」との違い 2.皮膚の役割を考える(ディスカッション) 3.皮膚の基本的な構造を描く(皮膚3層構造、表皮4層構造) 4.皮膚の各層の構造と機能.部位による違い			9	【授業単元】 肌質を見分ける 【授業形態】 講義 【到達目標】 1.肌質を理解することの重要性 2.各肌質の特徴と見分け方(乾燥肌・脂性肌・乾燥型脂性肌) 3.肌質分布図(角層水分量・経皮膚水分蒸散量(TEWL)) 4.肌質に対応したスキンケア		
2	【授業単元】 皮膚の構造と機能を知る(1) 【授業形態】 講義 【到達目標】 1角層・表皮の構造と機能、表皮のターンオーバー 3.ケラトヒアリン顆粒、層板顆粒、細胞接着・細胞間結合 4.角層の保湿機能とバリア機能:皮脂・NMF・角層細胞間脂質			10	【授業単元】 敏感肌を知る 【授業形態】 講義 【到達目標】 1.敏感肌の定義、実態 2.敏感肌の原因と評価方法 3.敏感肌の対処方法		
3	皮膚の構造と機能を知る(2) 【授業形態】 講義 【到達目標】 1真皮の構造と機能 2.色素細胞の構造と機能 3.皮下組織及び皮膚付属器(脂腺、汗腺)の構造と機能 4.毛器官及び爪の構造と機能			11	【授業単元】 皮膚の老化 【授業形態】 講義 【到達目標】 1.自然老化・光老化の理解 2.シワ・シミ(色素沈着症)のメカニズムの理解 3.加齢に伴う慢性炎症による老化(inflammaging)		
4	【授業単元】 スキンケア化粧品を知る 【授業形態】 講義 【到達目標】 1.スキンケア化粧品の定義と分類(薬機法) 2.なぜヒトはスキンケアを必要とするか？ 3.スキンケアの3本柱(洗浄・保湿・紫外線防御)			12	【授業単元】 皮膚の清潔と洗浄 【授業形態】 講義 【到達目標】 1.皮膚洗浄剤と界面活性剤 2.界面活性剤の皮膚への影響 3.皮膚洗浄剤に関する最近の知見		
5	【授業単元】 スキンケア科学をめぐる基礎知識 【授業形態】 講義 【到達目標】 1.皮膚の免疫機能、二重抗原暴露仮説 3.経皮吸収、500ダルトンルール 4.皮膚感覚機能、皮膚乾燥とかゆみ 5.ホルモンと皮膚			13	【授業単元】 紫外線と皮膚 【授業形態】 講義 【到達目標】 1.紫外線とは？、紫外線の皮膚への影響 2.紫外防御化粧品、SPF/PA 3.日常生活に合わせた紫外線防御化粧品の選び方		
6	【授業単元】 皮膚を測る(機器診断) 【授業形態】 講義 【到達目標】 1.角層機能の診断:角層水分量、経費水分蒸散量(TEWL) 2.皮膚表面pH値、皮脂分泌量、真皮の血流、紅斑 3.メラニン量、皮膚色、粘弾性、神経知覚閾値 4.皮膚イメージング			14	【授業単元】 化粧品の有用性・安全性 【授業形態】 講義 【到達目標】 1.化粧品の構成する成分 2.化粧品による安全性問題の経緯 3.化粧品の安全性に対する基本的な考え方と試験方法 4.製品への安全性に関する記載		
7	【授業単元】 知っておきたい皮膚疾患と化粧品 【授業形態】 講義 【到達目標】 1.乾皮症、皮脂欠乏性皮膚炎、アトピー性皮膚炎 2.接触皮膚炎、手湿疹、ふけ、脂漏性皮膚炎、尋常性痤瘡			15	【授業単元】 定期試験・解答解説 【授業形態】 【到達目標】 期末試験:60点満点		
8	【授業単元】 前半のまとめ・中間試験・解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 中間試験:第7回講座終了後:20点満点			【評価方法について】 定期試験:60点満点 小テスト:講義終了後(不定期)合計20点満点 中間試験:第7回講座終了後:20点満点 合計:100点満点			
【特記事項】							

科目名 (英)	化粧品基礎実習 (Cosmetics Development Training)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・コース	化粧品総合学科	授業 形態	実習	総時間 (単位)	60時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期(前半) 火曜日1～4限
【授業の学習内容と心構え】 化粧品業界において研究開発経験を有し、大学・専門学校において化学・化粧品分野の教員経験が10年以上ある教員が、化粧品を学ぶための基本となる知識、技術を習得するための授業を行う。 特に、技術の習得は実際に自分の手を動かして初めて可能となるので、遅刻・欠席をせず、積極的に実習に参加して欲しい。							
【到達目標】 化粧品分野における基本的な知識を身に付ける。 実習における基本的操作を習得する。 化粧品における処方の成り立ちや各成分の働き、配合目的、分析方法などを理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 配布実習書、新化粧品学(南山堂)				【授業外における学習】 毎回の実習のレポートを作成し、次週提出する。			
授 業 概 要				回 授 業 概 要			
1～4	【授業単元】市販化粧水の評価 【授業形態】 実習 【実習内容】 実習室の決まりごと 化粧品の定義 市販化粧水の評価			17～20	入溶剤中の色素の定量と入溶剤の作製 【授業形態】 実習 【実習内容】 ・入溶剤中の色素の定量 ・定量した色素濃度をもとに入溶剤の作製 ・発泡入溶剤の作製		
	【到達目標】 ・実習室の決まりを順守する ・化粧品の定義を説明できる ・評価シートに従って市販化粧水の官能評価ができる ・pHメーターを使ってpHの測定できる ・実習の記録がとれる				【到達目標】 ・最小二乗法を用いて検量線の直線回帰ができる ・吸光度分析の一連の操作ができる ・ppm濃度換算ができる ・回帰式から濃度が計算できる ・入溶剤を作製できる		
5～8	【授業単元】 化粧水の作製 【授業形態】 実習 【実習内容】 ・保湿剤の評価 ・緩衝作用・可溶性の確認 ・オリジナル化粧水の作製			21～24	【授業単元】 セッケンの合成 【授業形態】 実習 【実習内容】 ・油脂とは ・石ケンの合成の原理 ・ケン化率100%および80%の石ケンの合成		
	【到達目標】 ・実習書記載の保湿剤の感触を区別することができる ・化粧品処方や工程図が書ける ・緩衝液を作ることができる ・香料を可溶性化できる ・オリジナル化粧水を作ることができる				【到達目標】 ・動植物油脂の構造を説明できる ・セッケンの合成の原理を記述できる ・ケン化価の定義を説明できる ・ケン化価とケン化率からアルカリの量を計算できる ・セッケンの合成ができる		
9～12	【授業単元】 乳化実験 【授業形態】 実習 【実習内容】 ・乳化基礎実験 ・W/Oクリームの作製 ・O/Wクリームの作製			25～28	【授業単元】 水溶性高分子(カルボマー)のpHと粘度測定 【授業形態】 実習 【実習内容】 ・カルボマー水溶液のpHと粘度測定 ・ジェル製品の製造 ・水蒸気蒸留法におけるラベンダー精油の抽出		
	【到達目標】 ・乳化の概念が説明できる ・HLBの計算ができる ・加熱・冷却の操作ができる ・乳化の基本的な作業ができる ・W/O乳化物とO/W乳化物を判別できる				【到達目標】 ・化粧品においてレオロジーの重要性を説明できる ・粘度計で粘度を測定できる ・カルボマーの性質を説明できる ・単純なジェル製品を製造できる ・水蒸気蒸留法でラベンダー精油の抽出ができる		
13～16	【授業単元】 色素濃度の定量 【授業形態】 実習 【実習内容】 色素液の希釈 ・吸収波長の測定 ・検量線から色素濃度の定量			29～30	【授業単元】 定期試験・解答解説 【授業形態】 【到達目標】 ・理解不足の点を確認し、再度定着し、到達目標を達成できる		
	【到達目標】 ・化粧品分析の必要性を説明できる ・分光光度計の扱いを習得する ・溶液の希釈ができる ・検量線が書ける ・検量線から色素濃度の定量ができる				【評価について】 中間試験(40点満点):筆記試験の代わりに毎回の実習レポートで評価する 定期試験(60点満点) 実施方法:筆記試験 実習で習得した専門的な知識・技術の理解、定着度を確認する		
【特記事項】				合計100点満点で評価する。評価は学則規定に準ずる			

科目名 (英)	化粧品基礎技術実習(生物) (Cosmetic Basic Practice (Biology))	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	化粧品総合学科	授業 形態	実習	総時間 (単位)	30時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 水曜日 1～4時限
【授業の学習内容と心構え】 大学及び研究機関において、植物の品種改良に関する研究に携わり、主に細胞工学・遺伝子工学を用いた研究を行い、同時に専門学校や大学で実験系科目の教育に携わってきた教員が授業を担当する。生物学の応用として発展するバイオテクノロジーは、医療あるいは医薬品開発の世界で活用される技術であり、①生物(の構造)を知る、②生物の持つ力を知る、③生物の持つ力を応用する、ことにより成り立つ技術である。今回は身近な生物を用い、植物・動物・菌の基本構造やその機能を実際に観察することで、様々な生物の違いと秘めた力について知見を広めて欲しい。							
【到達目標】 生物材料の取扱いに慣れ、生物顕微鏡の正しい操作を身につける事を最小限の目標とする。 さらに、生物学的なスケッチが観察力を養うという意義を知っており、正確な記録を残す事ができる。 その上で、与えられた課題を解くだけでなく、自ら疑問点を見つけ出し、解決する方法を模索する姿勢が身についている。							
【使用教科書・教材・参考書】 プリント				【授業外における学習】 失敗も含めて、なぜそうなったのか考え、どうすべきか改善する習慣をつける			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1－4	【授業単元】 生物の構造を知る 【授業形態】 実習 【到達目標】 ・人間の基本的構造を知る ・皮膚や髪の毛の構造を知る ・人間の感覚器の働きを知る ・顕微鏡が扱えるようになる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5－8	【授業単元】 生物の力を知る 【授業形態】 実習 【到達目標】 ・簡単な色素抽出のやり方を知る ・簡単な香料抽出のやり方を知る ・オールドバイオテクノロジーを知る ・パーマーを扱った実験ができるようになる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
9－12	【授業単元】 生物の力を応用する 【授業形態】 実習 【到達目標】 ・薬効成分を利用した商品を作ってみる ・発酵の仕組みを知る ・発酵を試みる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
13－15	【授業単元】 生物の力を使う・定期試験・解答解説 【授業形態】 実習 【到達目標】 ・酵素を知る ・酵素の力を利用した製品を作ってみる ・ニューバイオテクノロジーを知る				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【評価について】 評価は、実験後に提出するレポート(40点)と、定期試験(60点)の合計100点で評価する。評価は、学則規定に準ずる。		
【特記事項】 観察中の発見や疑問点は詳細に実習ノートに記載する。それを元に分かりやすい報告書を書くように、常に意識する事。							

科目名 (英)	化粧品基礎技術実習(化学) (Cosmetic Basics Practice (Chemistry))	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・コース	化粧品総合学科	授業 形態	実習	総時間 (単位)	30時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 水曜日 1～4時限
【授業の学習内容と心構え】 高等学校、専門学校において、理系科目、実習の教員経験がある教員が、基礎からしっかり実習技術を指導する。 すべての実習の基本になるので、しっかり身に付けてほしい。							
【到達目標】 実験マナーを身に付け、安全に実験が出来るようになる。 器具・機器の名称と用途を覚え、正確に扱えるようになる。 実験の方法、流れを理解し、スムーズに実験を行え、結果が出せるようになる。 実験レポートが書けるようになる。							
【使用教科書・教材・参考書】 バイオ実験技術テキスト 基本操作編(改訂版) 視覚でとらえるフォトサイエンス 化学図録 三訂版				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1.2	【授業単元】 実験のための基本的な注意、安全、機器等の取り扱い 【授業形態】 実習 【到達目標】 実験をする上で必要なマナー、応急処置、廃棄物処理ができる。 実験で使用するガラス器具、器具の取り扱いができる。 実験で使用する水と試薬についての取り扱いができる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3.4	【授業単元】 溶液調製と濃度①(パーセント濃度) 【授業形態】 実習 【到達目標】 パーセント濃度の溶液を調製できる パーセント濃度の計算が出来る。 試薬や溶媒を正確に量り取ることができる。 規定の濃度の塩化ナトリウム溶液を作ることが出来る。 塩化ナトリウム溶液を希釈し、規定の濃度に出来る。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5.6	【授業単元】 溶液調製と濃度②(モル濃度) 【授業形態】 実習 【到達目標】 モル濃度の溶液を調製できる モル濃度の計算が出来る。 試薬や溶媒を正確に量り取ることができる。 規定の濃度の塩化ナトリウム溶液を作ることが出来る。 規定の濃度のブドウ糖溶液を作ることが出来る。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7.8	【授業単元】 酸・塩基の試薬調製と標定① 【授業形態】 実習 【到達目標】 pHがわかる。指示薬の種類がわかる。 水酸化ナトリウム溶液が調製できる。 塩酸希釈溶液が調製できる。 指示薬とpH変色域と色がわかる。 pHを測定することが出来る。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
9.10	【授業単元】 酸・塩基の試薬調製と標定② 【授業形態】 実習 【到達目標】 指示薬を使うことが出来る。pHを測定できる。 塩酸と水酸化ナトリウム溶液を使用し、指示薬とpH変色域の色の変化を理解する。(フェノールフタレイン、メチルオレンジ等) pHメーターの使い方が解る。(セットアップ、校正、片付け)				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
11.12	【授業単元】 酸・塩基の試薬調製と標定③ 【授業形態】 実習 【到達目標】 中和滴定。 pH曲線を作成すると共に、ビュレットの使い方を習得する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
13.14	【授業単元】 酸・塩基の試薬調製と標定④ 【授業形態】 実習 【到達目標】 食品中の有機酸の定量 食酢の酸度 ヨーグルトの酸度 レモンの酸度				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
15	【授業単元】 定期試験・解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 実習で学んだ器具機器の名称、使用用途、試薬、実験方法についてわかる。			【評価について】 定期試験の実施。 60点 実験ごとの小テスト、レポート等の実施。 40点			
【特記事項】 1時間目に実習内容の説明・確認を行ないます。 遅刻すると分からなくなりますので、時間は守ってください。							

科目名 (英)	化粧品基礎技術実習(微生物) (Cosmetic Basics Practice (Microbiology))	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	化粧品総合学科	授業 形態	実習	総時間 (単位)	30時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 水曜日 1～4限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 学生時代は魚病学、養殖魚類の真菌症の防除について研究を行っていました。扱う対象が変わっても20年以上、微生物と関わっています。講義は、どちらかと言えば受動的ですが、実験は能動的です。この実験を通して失敗をしても、自分が納得するまで何回でも試行錯誤しながら、結果にたどり着く姿勢を身につけて欲しいです。							
【到達目標】 肉眼では不可視である微生物の正体を可視化することで、講義等で習得した微生物に対する印象を具体化すること。併せて身近な微生物の存在と、それらを抑制する方法について理解することを目標とする。							
【使用教科書・教材・参考書】 配布資料				【授業外における学習】 レポートは考察が採点の要である。考察を書くために必要な文献、正確な情報等を収集するようにしてほしい。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1, 2	【授業単元】 殺菌(滅菌)と人体由来の微生物の分離 【授業形態】 実習 【到達目標】 滅菌生理食塩水の作製および人体由来の微生物の分離・培養を行う。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3, 4	【授業単元】 グラム染色の練習 【授業形態】 実習 【到達目標】 納豆菌を用いてグラム染色の練習を行う。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5, 6	【授業単元】 環境由来の微生物の分離 【授業形態】 実習 【到達目標】 環境由来の微生物の分離・培養を行う。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7, 8	【授業単元】 人体由来の微生物の観察 【授業形態】 実習 【到達目標】 分離した人体由来の微生物のグラム染色および観察を行う。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
9, 10	【授業単元】 真菌観察の準備および抗菌試験の準備 【授業形態】 実習 【到達目標】 真菌の分離・培養および身近な物質を用いた抗菌試験の準備を行う。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
11, 12	【授業単元】 環境由来の微生物の観察 【授業形態】 実習 【到達目標】 分離した環境由来の微生物のグラム染色および観察を行う。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
13, 14	【授業単元】 抗菌試験の結果判定 【授業形態】 実習 【到達目標】 阻止円の計測結果を基に、供試物質の抗菌効果を検証する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
15	【授業単元】 真菌の観察 【授業形態】 実習 【到達目標】 分離した真菌の観察を行う。				【評価方法について】 実習に取り組む姿勢(授業点)40点、レポート点60点で評価を行う。レポートの提出期限を厳守とし、未提出は0点、期限を過ぎて提出した場合は減点とする。		
【特記事項】 実験の準備等によって順番および内容を変更する場合がある。							

科目名 (英)	スキンケア製品開発実習 (Skin Care Product Development Practical)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	化粧品総合学科	授業 形態	実習	総時間 (単位)	120時間 (4)	開講区分 曜日・時間	前期・後期 火曜日 1～4時間
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 化粧品総合技術者として長きに渡り化粧品処方開発及び化粧品素材開発に取り組んできた教員が、化粧品総合技術者のスペシャリストを目指す学生に向けて、スキンケア製品の処方や用いられる原料、製剤化技術などに関する専門的な知識と技術の基礎を習得する授業を行なう。 目指す職種のやりがいや重要性を見つけ、専門職として必須なことは何かを考えながら受講して欲しい。 実習がメインとなる授業であり、グループで活動を行うため、遅刻欠席は出来るだけせず、復習をしっかりと授業に臨んでほしい。							
【到達目標】 スキンケア化粧品の処方開発に必要な知識、技能を理解し必要な専門的な知識、技能および態度を習得する。 化粧品開発の一員としての化粧品開発技術者の役割を知る。 人々のニーズに合ったスキンケア化粧品創出のために、化粧品開発技術のアセスメント・商品企画、処方設計開発、品質評価ができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 使用教科書:新化粧品学(第2版) 使用教材:配布プリント				【授業外における学習】 専門用語が頻繁に出てくるので、予め教科書を読み、予習してくること。 また、配布プリントの復習をし、より確実に見につけることが望ましい。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1－4	【授業単元】 スキンケア化粧品の目的の理解 【授業形態】 実習 【到達目標】 実習の仕方、レポート作成の理解 スキンケア化粧品の目的の理解 溶解順序、乳化冷却時の攪拌の理解			33－36	【授業単元】 W／O、O／W／O乳化法の処方と製法の理解 【授業形態】 実習 【到達目標】 アミノ酸ゲル乳化法によるW／O型乳化処方の製法の理解 2段階乳化法によるO／W／O型乳化処方の製法の理解 電気伝導度による乳化型判定法の習得		
5－8	【授業単元】 クレンジングフォームの処方、製法の理解 【授業形態】 実習 【到達目標】 高級脂肪酸系クレンジングフォームの処方、製法の理解 アミノ酸系クレンジングフォームの処方、製法の理解 粘度計の使用法の習得 経時変化測定の方法と目的の理解			37－40	【授業単元】 透明石鹸、ボディシャンプーの処方と製法の理解 【授業形態】 実習 【到達目標】 石鹸の処方、製法の理解 透明化技術、屈折率の理解 ボディシャンプーの処方、製法の理解		
9－12	【授業単元】 モイスチャーバランスと可溶化粧水の製法の理解 【授業形態】 実習 【到達目標】 柔軟化粧水の処方、製法の理解 モイスチャーバランスの理解 水分測定計の使用法習得及びモイスチャー作用の理解			41－44	【授業単元】 クレンジングクリームの処方と製法の理解 【授業形態】 実習 【到達目標】 クレンジングクリーム処方と製法の理解 有機概念図の概念と応用の理解 クレンジング評価法の理解と習得		
13－16	【授業単元】 諸タイプの化粧水処方、製法の理解 【授業形態】 実習 【到達目標】 柔軟化粧水、収斂化粧水、洗浄化粧水、2層式化粧水の処方、製法の理解 各製剤の作用、使用感触の理解			45－48	【授業単元】 美容液、ジェルの処方と製法の理解 【授業形態】 実習 【到達目標】 美容液、ジェルの処方と製法の理解		
17－20	【授業単元】 界面活性剤、HLB、乳化についての理解 【授業形態】 実習 【到達目標】 界面活性剤、HLB、乳化について理解する 顕微鏡観察の操作を理解し、習得する			49－52	【授業単元】 サンスクリーン剤の処方と製法の理解 【授業形態】 実習 【到達目標】 SPFとPAの概念の理解 サンスクリーン剤の処方と製法の理解		
21－24	【授業単元】 乳液の処方、製法の理解 【授業形態】 実習 【到達目標】 石鹸ノニオン系乳液、粘液質系乳液、W／O乳化系乳液の処方、製法の理解 乳液の目的、機能、種類の理解			53－56	【授業単元】 パックの処方と製法の理解 【授業形態】 実習 【到達目標】 パックの処方と製法の理解		
25－28	【授業単元】 パニングクリームの処方、製法の理解。 【授業形態】 実習 【到達目標】 パニングタイプクリームの処方、製法の理解 パニング作用と使用感触の理解			57－60	【授業単元】 入浴剤の処方と製法の理解 【授業形態】 実習 【到達目標】 ミルクバス、発泡性バスソルトの処方と製法の理解 サーモグラフィー測定法の理解と習得		
29－32	【授業単元】 中間試験 【授業形態】 【到達目標】 第1回～第7回の講義及び実習内容の理解 マイクロエマルジョンの処方の理解			試験	【授業単元】 定期試験、解説 【授業形態】 【到達目標】 第8回～第15回の講義及び実習内容の理解		
【特記事項】				【評価方法について】 前期 中間評価 前期小テスト:40%、中間試験:60% 後期 定期試験 後期小テスト:40%、定期試験:60% 小テスト:レポートの作成能力評価 中間試験:第1回～第7回の講義及び実習内容の理解度評価 定期試験:第8回～第15回の講義及び実習内容の理解度評価			

科目名 (英)	メイクアップ製品開発実習 (Cosmetics Product Development Practi	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
		授業 形態	実習	総時間 (単位)	120時間 (4)	開講区分	後期 水曜日 1～4限目
学科・専攻	化粧品総合学科						
【授業の学習内容と心構え】 この講座ではメイクアップ製品を実際に作製、評価することを通じて、製品の成分構成や製造方法、使用する原料の性質や特徴を習得していきます。その日の実施事項と結果はきちんと整理し、しっかり考察しておきましょう。そして出会った現象、事象に対して常に「なぜ？どうして？」という疑問を持ち考える姿勢を持つことが大切です。なお、実作業はグループ単位で行ないますが、火傷や怪我などしないよう事前の注意事項は厳守するよう心がけてください。							
【到達目標】 各種ベースメイク、ポイントメイク製品に使用される主要原料とその役割、処方構成、製造方法の基本技術を実際のモノ作りを通して習得する。 さらには狙いの品質や機能を持った製品の処方設計、製造にチャレンジする。							
【使用教科書・教材・参考書】 ◎「新化粧品学」第2版 光井武夫編 南山堂 ◎実習書 ◎その他プリント				【授業外における学習】 実習後は原料の使用目的や製品の製造方法、評価の仕方などの理解を深めるとともに自ら作ってみたいものを考えておき自由テーマ研究に繋げていきましょう			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1～4	【授業単元】 リップクリームの製品化実験 【授業形態】 実習 【到達目標】 使用原料の性質と役割を知り、製造方法を習得する ・メイクアップ製品開発実習における留意点の理解 ・使用する原料概論、原料評価 ・リップクリームの構成原料の理解と製造			33～36	【授業単元】 下地クリーム、コンシーラーの製品化実験 【授業形態】 実習 【到達目標】 下地クリーム、コンシーラーの製造技術習得 ・乳化タイプの下地クリーム、コントロールカラーの製品化 ・スティックコンシーラーの製造実験		
5～8	【授業単元】 リップスティックの処方作成・製品化実験(1) 【授業形態】 実習 【到達目標】 リップスティックの処方、製造方法を理解する ・口紅の原料特性・処方・製造技術 ・3本ローラーの操作 ・スティックタイプ口紅の金型成型技術			37～40	【授業単元】 リキッドファンデーション、BBクリームの製品化実験 【授業形態】 実習 【到達目標】 O/W型及びW/O型リキッドファンデの製造技術習得 ・O/W型リキッドファンデーションの処方構成と製品化技術 ・シリコン油を用いたW/O型リキッドファンデーションの作製 ・BBクリームの処方構成と製品化		
9～12	【授業単元】 リップスティックの処方作成・製品化実験(2) 【授業形態】 実習 【到達目標】 口紅の調色、製造技術、評価方法等の習得 ・パール剤、顔料調色実習 ・レオメーター、粉体測定 ・官能評価方法			41～44	【授業単元】 シリコン誘導体と化粧品への応用及びレオロジー研究 【授業形態】 実習 【到達目標】 シリコンを応用した化粧品技術習得とレオロジーの理解 ・レオロジー測定と流動奥性の理解 ・シリコン誘導体を応用したW/O型クリームの作成 ・シリコン誘導体を応用したサンスクリーン剤の作成		
13～16	【授業単元】アイシャドウの製品化実験 【授業形態】 実習 【到達目標】 アイシャドウの原料特性と製造技術の習得 ・アイシャドウの処方構成の理解と製造 ・プレス成型技術、多色プレス技術習得 ・粉体測定			45～48	【授業単元】 マスカラ・アイライナーの処方作成・製品化実験(1) 【授業形態】 実習 【到達目標】 マスカラ処方の理解、製造方法、評価法の習得 ・エマルションポリマーの理解 ・マスカラの処方作成・製品化技術 ・容器小道具、の特徴と充填方法、品質評価方法		
17～20	【授業単元】、チークカラー(頬紅)、ハイライトの製品化実験 【授業形態】 実習 【到達目標】 チークカラー、ハイライトの製造技術、評価方法の習得 ・プレスドタイプチークカラー、ハイライト製造 ・バックインジェクション(スラリー充填)成型 ・流動特性の把握			49～52	【授業単元】 マスカラ・アイライナーの処方作成・製品化実験(2)(練習問題) 【授業形態】 実習 【到達目標】 アイライナー、アイブロウ処方の理解、製造方法の習得 ・アイライナー、パウダーアイブロウ処方作成・製品化技術 ・形態と容器、小道具の特徴 ・品質評価方法		
21～24	【授業単元】 パウダー・2ウェイファンデーションの製品化実験(1)(練習問題) 【授業形態】 実習 【到達目標】 (2ウェイ)パウダーファンデーションの製造技術習得 ・製品の物性測定、表面処理技術の習得 ・処理粉体の応用技術 ・2ウェイファンデーションの製品化 ・プレス成型技術の習得			53～56	【授業単元】 ネイルエナメル、除光液の製品化実験。(定期試験) 【授業形態】 実習 【到達目標】 ネイルエナメル、除光液の製造技術の習得 ・ネイルエナメル、除光液の原料構成、注意事項と調整方法 ・カラーマッチング ・塗膜作成方法と物性(硬度)評価 ・定期試験		
25～28	【授業単元】 2ウェイファンデ(2)、コンパクトパウダーの製品化実験(中間試験) 【授業形態】 実習 【到達目標】 2ウェイファンデーションの製造技術習得 ・2ウェイファンデーション、コンパクトパウダーの製品化 ・製品の物性測定と品質評価(色差計、硬度計) ・中間試験			57～60	【授業単元】 企画・商品開発立案による自由テーマ研究 【授業形態】 実習 【到達目標】 各班の開発目標の明確化と目標品質確保にチャレンジ ・各班設定テーマについて製品形態で具現化し、結果発表を実施		
29～32	【授業単元】 油性ゲル、リップグロスの製品化実験 【授業形態】 実習 【到達目標】 油性ゲルの特性把握、リップグロス製造技術習得 ・リップグロスの機能と原料の理解 ・リップグロスの処方構成と製造 ・油性ゲルの構造理解			【評価方法について】 中間試験（40点満点） 実施方法：筆記試験(持ち込み無し) 定期試験（60点満点） 実施方法：筆記試験(持ち込み無し)			
【特記事項】 毎回、各グループ毎に、記録ノートを提出していただきます							

科目名 (英)	ヘアケア製品開発実習 (Hair Care Product Development Practical)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・コース	化粧品総合学科	授業 形態	実習	総時間 (単位)	120時間 (4)	開講区分 曜日・時間	後期・集中 月曜日・その他1～4限
【授業の学習内容と心構え】 化粧品業界において研究開発経験を有し、大学・専門学校において化学・化粧品分野の教員経験が10年以上ある教員が、ヘアケア製品の製造方法を実習で習得し、また、製造管理や品質管理の方法を学ぶ授業を行う。特に、技術の習得は実際に自分の手を動かして初めて可能となるので、遅刻・欠席をせず、積極的に実習に参加して欲しい。また、最後の数回は学んだことを生かして自分たちでテーマを決めて製品を製造し、みんなの前で発表する。							
【到達目標】 ヘアケア製品を製造するために必要な知識と技術を習得する。 学んだことを生かして自分なりのテーマを立て、処方展開をし、製品を作り上げることができる。 学んだことを生かして自分なりのテーマを立て、処方展開をし、製品を作り上げた過程を発表できる。							
【使用教科書・教材・参考書】 配布実習書、新化粧品学(南山堂)				【授業外における学習】 毎回の実習のレポートを作成し、次週提出する。			
授 業 概 要				回	授 業 概 要		
1-4	【授業単元】 シャンプー① 【授業形態】 実習 【到達目標】 毛髪の構造を説明できる シャンプーの基本構成がわかる シャンプーの使用感の評価ができる			33-36	【授業単元】 セットローション・パーマ 【授業形態】 実習 【到達目標】 セットローションを製造できる カールリテンションテストを実施できる パーマの原理がわかり、製造できる		
5-8	【授業単元】 シャンプー② 【授業形態】 実習 【到達目標】 シャンプーの基本処方が組み立てられる 種々のアニオン性界面活性剤の感触の違いを実感できる アミノ酸系洗浄剤の増粘ができる			37-40	【授業単元】 染毛剤 【授業形態】 実習 【到達目標】 一時染毛剤、半永久染毛剤、永久染毛剤の染色部位を説明できる 一時染毛剤、半永久染毛剤、永久染毛剤の原理が説明できる ヘアマニキュア、ヘアカラーを製造できる		
9-12	【授業単元】 シャンプー③ 【授業形態】 実習 【到達目標】 シャンプーにおけるシリコンの働きを実感できる 処方展開の基本的なやり方を実践できる シャンプーの処方アレンジができる			41-44	【授業単元】 定期試験 自由テーマ準備 【授業形態】 実習 【到達目標】 1-10回の振り返りができる 自分たちで適切なテーマを設定できる		
13-16	【授業単元】 リンス・コンディショナー① 【授業形態】 実習 【到達目標】 カチオン性界面活性剤の働きがわかる 種々のコンディショニング剤の違いがわかる リンスの基本処方が組み立てられる			45-48	【授業単元】 自由テーマ① 【授業形態】 実習 【到達目標】 自分たちで適切なテーマを設定できる テーマに沿って処方アレンジできる 次回やることを設定できる		
17-20	【授業単元】 リンス・コンディショナー② 【授業形態】 実習 【到達目標】 リンスにおけるシリコンの働きを実感できる 処方展開の基本的なやり方を実践できる リンスの処方アレンジができる			49-52	【授業単元】 自由テーマ② 【授業形態】 実習 【到達目標】 テーマに沿って処方アレンジできる 次回やることを設定できる 行った実験をまとめられる		
21-24	【授業単元】 アウトバストリートメント 【授業形態】 実習 【到達目標】 毛髪の損傷原因が説明できる クリームタイプのアウトバストリートメントが製造できる 水系・油系のミストを製造できる			53-56	【授業単元】 自由テーマ③ 【授業形態】 実習 【到達目標】 テーマに沿って処方アレンジできる 行った実験をまとめられる 処方設定から処方展開、結果の一連の作業をまとめられる		
25-28	【授業単元】 ヘアワックス・ボマード 【授業形態】 実習 【到達目標】 主な固形油、液体油の感触を知る レオメーターで硬度を測定できる ヘアワックス・ボマードを製造できる			57-60	【授業単元】 発表会 【授業形態】 実習 【到達目標】 自分たちの成果を発表できる 他班の発表に対して適切な質問ができる		
29-32	【授業単元】 ヘアリキッド・ヘアジェル 【授業形態】 実習 【到達目標】 ヘアジェルを製造できる ヘアリキッドを製造できる			【評価について】 中間試験(40点満点) 実施方法:1～10回の実習に対する提出レポートで評価(個人)30点 及び自由テーマの報告書(班)10点 定期試験(60点満点) 実施方法:定期試験(50点)、発表会での発表と質疑応答(10点)			
【特記事項】							

科目名 (英)	メイクアップ演習 (Make up)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	化粧品総合学科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 金曜日 3～4時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 化粧品カウンター責任者として接客接客と部下育成の経験後、美容インストラクターとして専門教育を行っている教員が授業を担当する。 化粧品開発のスペシャリストを目指すために、メイクアップ前のスキントイプ別スキンケア方法、メイクアップのステップ、メイクアップアイテムの使用目的、アイテム別の使い方と応用、補正メイクアップを学ぶ。メイクアップ化粧品の使用感、発色、使い心地を確かめながら実習しメイクアップ技術を学んでいく。 日常から授業の内容の知識を参考に、市場で販売されている化粧品の特徴や人気のある化粧品の魅力を参考に化粧品の開発に役立ててほしい。							
【到達目標】 メイクアップを美しく仕上げるためのスキントイプ別スキンケアができるようになる。 メイクアップ化粧品のアイテム別使用方法を説明しながら使うことができるようになる。 アイシャドウやチークのグラデーションが仕上げられるようになる。 補正メイクアップはゴールデンプロポーションを基準にしたメイクアップ方法を説明できるようになる。							
【使用教科書・教材・参考書】 配布プリント				【授業外における学習】 市場で販売されているメイクアップ化粧品の情報を化粧品販売店、化粧品カウンター、雑誌、インターネットなどから多く収集することが望ましい。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】メイクアップ前のスキンケア 【授業形態】演習 【到達目標】 スキントイプを見極めることができる スキントイプ別のスキンケアを説明できる			9	【授業単元】補正メイクアップ 【授業形態】演習 【到達目標】 ゴールデンプロポーションを基準にした補正メイクアップについて説明できる		
2	【授業単元】メイクアップ前のスキンケア 【授業形態】演習 【到達目標】 メイクアップを美しく仕上げるためのマッサージができる ファンデーションを美しく仕上げるスキンケアを説明できる			10	【授業単元】リップメイクアップ 【授業形態】演習 【到達目標】 リップメイクアップ化粧品の種類と使い方を説明できる 唇の形を美しく仕上げるリップメイクアップを説明できる		
3	【授業単元】ベースメイクアップ 【授業形態】演習 【到達目標】 肌の赤み、シミ、ニキビ痕など部分的にカバーできる ベースメイクアップを美しく仕上げる事ができる			11	【授業単元】リップメイクアップ 【授業形態】演習 【到達目標】 リップメイクアップアイテムを使いこなすことができる 唇の形を美しく仕上げたリップメイクアップができる		
4	【授業単元】 ゴールデンプロポーションと眉プロポーション 【授業形態】演習 【到達目標】 理想的なメイクアップバランスを説明できる 理想的な眉プロポーションを説明できる			12	【授業単元】チーク(頬紅) 【授業形態】演習 【到達目標】 チークをつける位置を説明できる 形状別のつけ方を説明できる メイクバランスを整える効果的な使い方ができる		
5	【授業単元】アイブロウ(眉の描き方) 【授業形態】演習 【到達目標】 理想的な眉の形を描くことができる バランスのよい眉を描くことができる			13	【授業単元】ポイントメイクアップ 【授業形態】演習 【到達目標】 目の形に合わせたアイメイクアップができる アイメイクアップとコーディネートしたリップメイクアップができる メイクアップバランスをよくするチークの使い方ができる		
6	【授業単元】アイメイクアップ 【授業形態】演習 【到達目標】 アイシャドウのつけ方と効果を説明できる アイライナーを描くことができる マスカラを効果的に塗ることができる			14	【授業単元】メイクアップ前のスキンケアとフルメイクアップ 【授業形態】演習 【到達目標】 スキントイプ別のスキンケアができる 美しい肌を演出できるベースメイクアップを仕上げられる アイメイクアップ、リップ&チークメイクアップができる		
7	【授業単元】アイメイクアップ 【授業形態】演習 【到達目標】 アイシャドウでグラデーションに仕上げる事ができる アイライナーで目元を強調したメイクアップができる マスカラを使用してまつ毛を強調したアイメイクアップができる			15	【授業単元】定期試験・解答解説 【授業形態】 【到達目標】 メイクアップ前肌タイプ別スキンケア、ベースメイクアップ、アイブロウ、アイメイクアップ、リップメイクアップ、チーク、補正メイクの基礎知識と技術が定着できている		
8	【授業単元】スキンケア、ベースメイクアップ、アイメイクアップ 【授業形態】演習 【到達目標】 ゴールデンプロポーションの知識を活かし、メイクアップ前のスキンケア、ベースメイクアップ、アイブロウ、アイメイクアップを仕上げる事ができる			【評価方法について】 評価は、筆記試験で行う。授業内で修得した専門的な知識の理解、定着度を確認する。筆記試験は小テスト(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】 演習は、各自いつも使用している化粧品の持参して積極的に実習を行いメイクアップ技術を習得すること。							

科目名 (英)	有機溶剤作業主任者 (Organic Solvent Operations Chief Examination Preparation)	必修 選択	選択	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	化粧品総合学科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 集中
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 就職先等で必要な有機溶剤の取り扱いを安全に行うための知識、関係法令について学ぶ。							
【到達目標】 国家資格である有機溶剤作業主任者の資格取得を目指す。							
【使用教科書・教材・参考書】 協会指定の教科書				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 有機溶剤による健康被害及びその予防措置に関する知識 【授業形態】 講義 【到達目標】 有機溶剤による健康被害及びその予防措置に関する知識について理解する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 有機溶剤による健康被害及びその予防措置に関する知識 【授業形態】 講義 【到達目標】 有機溶剤による健康被害及びその予防措置に関する知識について理解する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 作業環境の改善方法に関する知識 【授業形態】 講義 【到達目標】 作業環境の改善方法に関する知識について理解する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 作業環境の改善方法に関する知識 【授業形態】 講義 【到達目標】 作業環境の改善方法に関する知識について理解する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 保護具に関する知識 【授業形態】 講義 【到達目標】 保護具に関する知識について理解する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 保護具に関する知識、関係法令について 【授業形態】 講義 【到達目標】 保護具に関する知識について理解する 関係法令について理解する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 関係法令について 【授業形態】 講義 【到達目標】 関係法令について理解する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験・解答解説 【授業形態】 演習 【到達目標】 有機溶剤作業主任者の資格を取得する			【評価方法について】 出欠率による評価(S＝合格、U＝不合格)			
【特記事項】							

科目名 (英)	色彩検定対策講座Ⅰ	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
	(Color Coordination Test PreparationⅠ)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 金曜日 1～2時限
学科・専攻	化粧品総合学科						

【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】

カラーアナリストとして数百名のパーソナルカラー診断や、色彩関連セミナーの開催、企業や学校でカラーコーディネート講座を担当。
 色彩検定においては、色彩検定協会認定色彩講師、UC級講師として学校等で色彩検定対策講座を担当。高合格率の実績により、指導した学校を「優秀団体賞(2回)」
 「色彩検定協会奨励賞(2回)」に導いた経験を持つ講師が担当する。色の基礎からデザインの応用まで、公式テキストとオリジナル授業プリントを併用して学習を行う。
 習得した色彩の知識は、幅広い分野で活用することができるだけでなく、日常生活にも応用することができる。

【到達目標】

冬期色彩検定3級の合格を目指す。

【使用教科書・教材・参考書】		【授業外における学習】	
色彩検定公式テキスト3級、新配色カード199a 配布プリント、ワークシート、過去問題		・提示する課題に取り組む ・ワークシートで復習し、過去問題で問題に慣れる	

回	授 業 概 要	回	授 業 概 要
1	【授業単元】 色のはたらき 【授業形態】 講義 【到達目標】 色がもつ様々な機能、色の基本的な働きについて説明できる 色を見るために必要な要素について説明できる	9	【授業単元】 色彩調和 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 色相及びトーンを手がかりにした配色について説明できる 色相とトーンを組み合わせた配色について説明できる 実際の配色から、どの配色なのか判断ができる
2	【授業単元】 光と色 【授業形態】 講義 【到達目標】 光の性質と色、眼のしくみについて説明できる	10	【授業単元】 色彩調和、配色イメージ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 基本的な配色技法について説明できる 実際の配色から、どの配色なのか判断ができる 色の三属性やトーンから配色イメージが説明できる
3	【授業単元】 光と色 【授業形態】 講義 【到達目標】 照明と色の見え方について説明できる 色と色を混ぜると別の色が生まれる原理について説明できる	11	【授業単元】 ファッション 【授業形態】 講義 【到達目標】 ファッションコーディネートにおける色彩について説明できる ファッションコーディネートの色から配色の判断ができる
4	【授業単元】 色の表示(表色系) 【授業形態】 講義 【到達目標】 色を学習する際に必要な基本的用語や考え方について説明できる	12	【授業単元】 インテリア 【授業形態】 講義 【到達目標】 インテリアを形成している要因、配色効果、心理的效果について説明できる
5	【授業単元】 色の表示(表色系) 【授業形態】 講義 【到達目標】 色の表示方法である表色系(PCCS)について説明できる 実際の色を見て、色相・トーンの違いを分類できる	13	【授業単元】 過去問題 【授業形態】 講義 【到達目標】 理解していない項目、得意、苦手な項目を確認する 問題の出題スタイルに慣れる 検定合格レベルに達しているか確認する
6	【授業単元】 色彩心理 【授業形態】 講義 【到達目標】 色の心理的な効果と色の三属性の関係について説明できる 色の連想と象徴について説明できる	14	【授業単元】 過去問題 【授業形態】 講義 【到達目標】 理解していない項目、得意、苦手な項目を確認する 問題の出題スタイルに慣れる 検定合格レベルに達しているか確認する
7	【授業単元】 色彩心理 【授業形態】 講義 【到達目標】 色の視覚効果について説明できる	15	【授業単元】 定期試験・解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 色彩検定3級合格に向け、基本的な事柄を理解している
8	【授業単元】 中間試験・解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 光と色、色の表示について理解している	【評価方法について】 中間試験(40点) 実施方法:筆記(マークシート方式) 定期試験(60点) 実施方法:筆記(マークシート方式) 合計100点満点で評価する。評価は学則規定に準ずる。	

【特記事項】

配布するプリントの記入もれがないように。
 抜けたところは必ずテキストで確認する。

科目名 (英)	化粧品検定講座 (Cosmetics License Preparation)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	化粧品総合学科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 木曜日 1～2時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 これまで化粧品業界にて長年にわたり処方設計や品質保証を経験し、現在は日本化粧品検定協会の顧問及び化粧品開発コンサルティング業務に従事している教員が、受験者累計36万人を超え、さらに本年より文部科学省後援事業にも認定された「日本化粧品検定」の1級の合格を目指し、就職活動及び就職後の実務に役立つ生きた知識を習得。みんなで1級合格を目指しましょう！							
【到達目標】 化粧品業界に広く浸透している日本化粧品検定1級の合格を目指し、卒業後に生かせる化粧品に関する幅広い知識を習得する。							
【使用教科書・教材・参考書】 日本化粧品検定1級及び2、3級対策テキスト、問題集				【授業外における学習】 テキストを事前に読み込むことによって知識の固定化を目指すようにすること。また試験前には問題集を解いて自分が間違えやすいポイントをしっかりと押さえること。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 化粧品の歴史、化粧品の原料について その1 【授業形態】 演習 【到達目標】 「化粧品の歴史」、「化粧品の原料(水溶性原料、油性原料)」について検定ポイントを中心に知識の習得を目指す。			9	【授業単元】 毛髪の構造とヘアケア製品 【授業形態】 演習 【到達目標】 「毛髪の構造とヘアケア化粧品」について検定ポイントを中心に知識の習得を目指す。		
2	【授業単元】 化粧品の原料について その2 【授業形態】 演習 【到達目標】 「化粧品の原料(界面活性剤、その他成分)」について検定ポイントを中心に知識の習得を目指す。			10	【授業単元】 ネイル化粧品、オーラルケア製品 【授業形態】 演習 【到達目標】 「ネイルの構造とネイル化粧品」「オーラルケアとケア製品」について検定ポイントを中心に知識の習得を目指す。		
3	【授業単元】 スキンケア化粧品 【授業形態】 演習 【到達目標】 「スキンケア化粧品」について検定ポイントを中心に知識の習得を目指す。			11	【授業単元】 香りの成分と働き、香水について 【授業形態】 演習 【到達目標】 「香りの成分と働き、香水について」について検定ポイントを中心に知識の習得を目指す。		
4	【授業単元】 男性用化粧品、メイクアップ化粧品の基本、UVケア 【授業形態】 演習 【到達目標】 「男性用化粧品」、「メイクアップ化粧品の基本」、「UVケア化粧品」について検定ポイントを中心に知識の習得を目指す。			12	【授業単元】 サプリメントの基礎知識、化粧品にまつわるルール1 【授業形態】 演習 【到達目標】 「サプリメントの基礎知識」「化粧品にまつわるルール」について検定ポイントを中心に知識の習得を目指す。		
5	【授業単元】 ベースメイクアップ化粧品、ポイントメイクアップ化粧品その1 【授業形態】 演習 【到達目標】 「ベースメイクアップ化粧品」「ポイントメイクアップ化粧品」について検定ポイントを中心に知識の習得を目指す。			13	【授業単元】 化粧品にまつわるルール2、2級テキストのポイント 【授業形態】 演習 【到達目標】 「化粧品にまつわるルール(続き)」について検定ポイントを中心に知識の習得を目指す。また1級試験で出題される2級テキスト(皮膚の構造、肌やみなど)についての知識習得を目指す。		
6	【授業単元】 ポイントメイクアップ化粧品その2、ボディ用化粧品 【授業形態】 演習 【到達目標】 「ポイントメイクアップ化粧品(続き)」「ボディ用化粧品」について検定ポイントを中心に知識の習得を目指す。			14	【授業単元】 ここまで学んだことのまとめ 【授業形態】 演習 【到達目標】 ここまで学んだことを検定ポイントを中心に復習し、知識の固定化を目指す。		
7	【授業単元】 ここまで学んだことのまとめ 【授業形態】 演習 【到達目標】 ここまで学んだことを検定ポイントを中心に復習し、知識の固定化を目指す。			15	【授業単元】 定期試験・解答解説 【授業形態】 演習 【到達目標】 試験により知識の習得度合いを把握する。		
8	【授業単元】 中間試験・解答解説 【授業形態】 演習 【到達目標】 試験により知識の習得度合いを把握する。			【評価方法について】 評価は学んだ化粧品検定1級(一部2級)の内容について、定着度の確認、及び検定試験の模擬的な形式になれることを目的に、筆記試験にて行う。筆記試験は中間試験(40点満点)、定期試験(60点満点)の合計100点満点で評価する。評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】 毎授業において、必要な内容はノートまたはテキスト上に丁寧に書き込むこと							